



PowerSuite Golden (Win 版) ガイド

## インデックス

[WinSuite](#)

[LiveBoot ウィザード](#)

### WinSuite

#### — [Check & Tuneup](#)

1 [PC ヘルスチェック](#)

2 [Windows スピードアップ](#)

1) [スタートアップ管理](#)

2) [サービス管理](#)

3) [インターネットオプティマイザー](#)

3 [Windows クリーンナップ](#)

- 1) [レジストリクリーナー](#)
- 2) [ディスククリーナー](#)
- 3) [インターネットプライバシークリーナー](#)
- 4) [コンピュータープライバシークリーナー](#)
- 5) [スマートアンインストール](#)
- 6) [IE プラグインクリーナー](#)
- 7) [ショートカットクリーナー](#)

#### 4 [Windows カスタマイズ](#)

- 1) [IE 修復](#)
- 2) [右クリックメニュー修復](#)
- 3) [Favorites To Go](#)

## 二 [Privacy & Security](#)

- 1 [Personal Safe](#)
- 2 [プライバシークリーナー](#)
- 3 [ファイルシュレッダー](#)
- 4 [ファイル暗号](#)

## 三 [ディスク管理](#)

- 1 [Partition Genius](#)
  - 1) [1つのパーティションをクローン](#)
  - 2) [ディスク全体をクローン](#)

## 2 データバックアップと復元

- 1) ファイル/フォルダーバックアップ/復元
- 2) パーティションバックアップと復元
- 3) ディスクバックアップ/復元

## 四 パスワード&キー検索

- 1 パスワード検索
- 2 Windows キー検索
- 3 Office キー検索

## — Check & Tuneup

### PC ヘルスチェック

---

PC ヘルスチェック は、注目すべき領域と最適化の可能性のある領域の概要をすばやく提供します。検出した問題、前回の起動からの変更点、コンピュータの設定が最適かどうかをお知らせします。詳細をクリックすると、各項目の詳細と、多くの場合、同時に処理方法が表示されます。

#### 使い方

このトピックでは、PC ヘルスチェックを使い始める際の助けになる基本的な情報を提供します。

#### ステップ 1: コンピュータの解析

コンピュータの解析から、開始します。

分析が完了すると PC の状態のスナップショットと、（もしあれば）PC ヘルスチェックが検出したトレースも見ることができます。

### ステップ 2: 問題を修正します

修正と最適化を簡単に済ませるなら、問題を修正ボタンをクリックしてください。

### ステップ 3: 他のツールを起動する

他に追加の修正と最適化を行う場合には、複数の関連機能を統合した、Windows スピードアップまたは Windows クリーンナップ、または、特定のタスクから選択してください。

例えば、コンピュータが遅い、またはクリーンナップが必要と思うなら、Windows スピードアップを選ぶか、Windows クリーンナップカテゴリから個々のツールを選択してください。

## Windows スピードアップ

## スタートアップ管理

---

スタートアップ管理は Windows の起動プロセスの管理を可能にします。どのプログラムを自動的に開始するかを制御して、ブートに要する時間を短縮できるようにします。

### 1. スタートアップマネージャー

#### なぜ、スタートアップマネージャーを使うのか

多くのアプリケーションは、許可を得る事無く、Windows と共に、自動的に開始します。システム上で、ある機能やサービスについては、意味のあることです、例えば、ウイルススキャナー、WLAN ネットワークの管理ツール、サウンドカードの設定コンソール等。

また、これらが Windows にログオンする度に、自動的に起動するのも意味があります。しかし、Windows 起動の度に、自動的に実行する必要の無いアプリケ

ーションもあります。新しくインストールされたアプリケーションは、しばしば、自分自身をスタートアップ項目に断り無くインストールするので、Windowsの起動がさらに遅くなります。これらのプログラムは、バックグラウンドで見えない状態で稼動して、システムリソースを浪費します。

悪いことに、これらの幾つか（例えば、アンチウイルス保護）は、無用で、質問や広告で邪魔するだけです。スタートアップから不要な項目を取り除くと、PCが速く、特に、起動が速くなります。

多くのユーザーは、スタートメニューのスタートアップにショートカットを入れるだけで自動的に起動することを知っていますし、それらを削除することも出来ます。しかし、それだけではありません。多くのスタートアップ常駐は、直接、レジストリにエントリを書き込んで、スタートアップフォルダには現れてきません。特に、Windows Vistaでは、システム起動時とユーザーログオン時のスケジュールタスクの導入により、プログラムの自動実行が出来るようになっていました。スタートアップマネージャーは、それ自身を自動的に起動するプログラムを、開始コマンドが隠されていても、検索します。

## 使い方

### ステップ 1: スタートアップマネージャーを開始する

<s2>Check & TuneUp</s2> モジュールから、スタートアップマネージャーをクリックして、開始します。

### ステップ 2: 自動的に開始するプログラムが必要かどうかを検索

スタートアップマネージャーは、そのメインウィンドウに、検出したスタートアップ項目を表示します。

最初のカラムには、名前、各スタートアップ項目のプログラムの名前が表示されます。本ユーティリティでは、プログラムが必要かどうかをお知らせします。評価カラムには、必要、不要、オプションの語が表示されます。各項目の詳細については、クリックすると表示されます。そうすると、その項目の完全な詳細がウィンドウの下部に表示されます。継続的に更新されているデータベースにより、スタートアップマネージャーはほとんどのスタートアッププログラムについて知っていて、それらがどのように動作するかをお知らせします。推奨で、スタートアップマネージャーは、エントリのヒントと即座に無効にするオプションを提供します。

### ステップ 3: エントリの無効化

デフォルトでは、すべてのスタートアップエントリは有効になっています。不要な項目を無効にするには、ツールバーの**無効** をクリックします。次回、Windowsが起動する際、そのプログラムは自動的に起動しません。

一度に1つだけが無効にするよう、お勧めします。コンピュータを再起動すると、通常通りプログラムが起動します。このやり方なら、そのエントリが必要かどうか判断できます。もし Windows 起動時に何かが正常に起動しなければ、そのチェックを再度付けてください。すべてがうまく動いたら、次の項目は無効にしてみましょう。

#### ステップ 4: 新しいスタートアップエントリを有効にする

何か新しいプログラムを自動で起動したければ、有効をクリックします。

## 2. ブートアップオプティマイザー

### ブートアップオプティマイザーを使うのか？

スタートアップ時間は、コンピュータ、Windows、起動時に自動的に開始するプログラムが起動するために必要な時間の合計です。スタートアップ時間を計測して、スタートアップログに、最新の時間を記録します。通常、ハードディスクの回転に時間がかかり、BIOS の最初のクエリに応答しません。起動時のディスク検出を閉じると、Windows の起動がスピードアップします。

### 使い方

#### スタートアップ時間を短縮 (Windows 読み込み)

デフォルトではこの機能は有効になっています。この機能は無効にするには、ツールバーの**無効**をクリックします。次回、Windows が起動する際、スクリーンのスクロールバーの時間が短くなります。

**注意:** このソフトウェアは、Windows XP/2003/Vista/Windows 7 専用です。

#### ハードディスク検出時間の短縮 (秒)

ハードディスク検出時間を短縮したければ、スクロールバーをドラッグして、HDD 検出時間を調整するか、直接、数値を入力

---

## サービス管理

---

## サービス管理とは？

Microsoft Windows オペレーティングシステムでは、Windows サービスは、長時間稼動する実行形式で、特定の機能を実行し、ユーザーの相互作用が必要ないものです。Windows サービスは、オペレーティングシステムが起動した時にバックグラウンドで起動して Windows と同時に稼動するか、必要時に、手動で開始します。これは、Unix の daemon と同様の概念のものです。Windows のタスクマネージャのプロセスリストに、その多くがユーザー名として **SYSTEM**、**LOCAL SERVICE** または **NETWORK SERVICE** のものとして表示されますが、ユーザー名 **SYSTEM** のサービスがすべてではありません。残りのサービスは、svchost.exe によって DLL としてメモリに読み込まれます。

起動タイプによって、サービスは、「自動」、「手動」、「無効」に分けられます。

- A. 「自動」は、システムの開始と同時にスタートするか、最初のサービス使用時にスタートするものを指します。
- B. 「手動」は、システムがロードする前に、ユーザーが手動で起動するまで、有効にならないサービスを指します。
- C. 「無効」は、それらが自動的に手動でも、有効にならないものを意味します。

## なぜ、サービス管理を使用するのか？

サービス管理は、Windows サービスのパフォーマンスとセットアップを改善するために異なるレイアウトを提供します。必要に応じて、5つのプロファイルからどれか一つを選んでください。ホームスクリーンのサービス管理をクリックして、この機能の画面にアクセスできます。

- **推奨サービス**：パフォーマンスと機能のバランスの良い組合せで、すべてのコアサービスを有効にします。機能とスピードを調和させます。
- **最大パフォーマンス**：パフォーマンスと最速の起動時間には、この**最大パフォーマンス**をお選びください。このオプションでは、コア Windows サービスを有効にします。
- **スペシャルカスタマイズ**：このオプションでは、3つの特別なモードを提供します、**セキュリティモード**、**ネットモード**、そして**スタンドアロンゲームモード**。必要に一番適したプロファイルを選択してください。
- **デフォルトに復元**：サービスを元の状態に戻したい場合、**デフォルトに復元**をクリックします。あなたのサービスは、最後にコンピュータに

インストールされた再の、それらのオリジナルの実行状態にリセットされます。

- **上級管理:** 上級ユーザーなら、システムサービスを管理して、サービスパラメータを自分で設定できます。

## 使い方

### ステップ 1: サービス管理を乖離する

Check & TuneUp モジュールから、**サービス管理**ボタンをクリックして プログラムを開始します。

### ステップ 2: お客様のニーズに最も適したモードを探します

サービス管理メインウィンドウから、必要に応じたモードを選び、**開始** をクリックしてシステムサービスの管理を開始します。

### ステップ 3: システムサービスの管理

すぐに適用するには、単に、ツールバーの**適用**ボタンをクリックして、推奨を実行しましょう。

適用中、進捗バーは、サービス管理がどの程度、サービスの最適化処理を進めたかを表示します。サービス管理モジュールは、サービスを1つずつ、不要なエントリとキーをサービスから停止させます。処理が完了するまでお待ちください。

モジュールが処理を完了すると、メッセージが現れて、すべてのサービスが最適化されたことを知らせます。

自身でサービスパラメータを指定する場合には、メインウィンドウのシステムサービスリストにシステムサービスが表示されています。初めに、特定するために、サービスのリストを確認して、最適化したいサービスを選択します。

最初のカラムは、サービス名、各サービスエントリの名称が表示されています。本ユーティリティは、すぐにサービスが必要かどうかを表示します。サービスリストには、開始サービス（推奨）、停止サービス（推奨）、オプションの文言が含まれています。各項目の詳細については、クリックすると表示されます。そうすると、その 項目の完全な詳細が ウィンドウのトップに表示されます。サービス管理コンソールは、サービスの機能の概要を表示し、サービスの実行形式の名称、その現在の状態、スタートアップタイプ等を表示します。サービスを管理する際、問題解決のために、オペレーティングシステムサービスを隠すことが出来ます。状態とスタートアップタイプのカラムでは、選択したサービスの開始と停止ができるインターフェースを提供します。矢印は、開始と停止、自動または手動のスタートアップタイプを設定できることを示します。



- **サービスを開始**: 起動したいサービスを選んで、**開始ボタン**をクリックします。
- **サービスを停止**: 停止させたいサービスを選んで、**停止ボタン**をクリックします。

システムサービスが最適化されたら、 **完了** をクリックして、メインインターフェースに戻ります。

---

## インターネットオプティマイザー

---

### なぜ、インターネットオプティマイザーを使うのか

**Internet Speedup** は、コンピュータの高速インターネット接続のパフォーマンスを向上させます。最新の Windows オペレーティングシステムは典型的なローカルネットワークのパフォーマンスに最適化されています。**Internet Speedup** は、遅延によって、停止したり、表示させている情報に割り込みが生じているような、あなたのコンピュータの設定を、高速インターネット接続に合わせて最適化します。

**Internet Speedup** は、Windows のネットワーク設定、Internet Explorer、最大転送ユニットの自動設定、転送ユニットの最大セグメントサイズ、転送ユニットのキャッシュサイズ（詳細は下記を参照のこと）の最適化を行います。

### 使い方

#### ステップ 1: Internet Speedup を開始

**Check & TuneUp** モジュールから、**Internet Speedup** ボタンをクリックして開始します。

#### ステップ 2: 接続のタイプを選択します

1. xDSL (xDSL、つまり、Digital Subscriber Line. DSL には、symmetric IDSL, HDSL, SDSL および asymmetric ADSL, VDSL その他が含まれます。DSL ユーザーには、このオプションをお勧めします)

2. PPPoE（普通は ADSL 仮想ダイヤルアップアクセスで使用。PPPoE は Point-to-Point Protocol over Ethernet の略。これは、データ転送の際にユーザー名とパスワードによる認証を追加するタイプのブロードバンド接続です。ケーブルモデムや DSL 接続であっても、接続の際にユーザー名やパスワードを入力していないなら、PPPoE 接続ではありません。そうでなければ、おそらく、PPPoE 接続です。）
3. ケーブルモデム（つまり、ケーブル TV のネットワークとデータ接続を共有しているもの。ケーブル TV のインターネット接続のユーザーは、このオプションをお選びください）
4. ISDN（ISDN つまり、Integrated Services Digital Network。N-ISDN（N: Narrow）の最高速度は 64-128Kbps に達します。ネットワーク最適化は、転送ユニットキャッシュにだけ適用可能です。）
5. LAN または ブロードバンド（このオプションは、LAN ユーザーであってそのパフォーマンスを最適化したい方のためのものです）
6. モデム（モデムでインターネット接続をされている方は、このオプションをお選びください）

**ステップ 3: 次へをクリックして最適化を実行します。**

**Internet Speedup** は、Windows のネットワーク設定、Internet Explorer、最大転送ユニットの自動設定、転送ユニットの最大セグメントサイズ、転送ユニットのキャッシュサイズの最適化を自動的行います。プログラムウィンドウは、最適化される、ネットワークの個々のセクションを表示します。エントリの前にある 青い矢印は、対応するセクションが現在最適化中であることを示します。緑色のチェックマークは、そのセクションの最適化が完了していることを示します。上部にある進捗バーは、最適化全体の進捗を示します。

最適化が完了するとネットワークの状態のスナップショットと、**Internet Speedup** によって最適化された 8 つの項目も見ることができます。8 つの項目は次の通り：

- 1) 最大転送ユニット（最適化完了）
- 2) 最大データセグメント長（最適化完了）
- 3) 転送ユニットバッファ（最適化完了）
- 4) デフォルトのデータユニットの有効期限（最適化完了）
- 5) 選択的応答と転送メカニズム（最適化完了）
- 6) MTU の自動検出（最大転送ユニットの自動検出）（最適化完了）
- 7) ブラックホールルーター検出機能（最適化完了）
- 8) 匿名ユーザ接続制限（最適化完了）

ネットワークパフォーマンスが最適化されたら、**完了**ボタンをクリックして、メインインターフェースに戻ってください。Internet Access Introduction に関連したトピック

### 選択的応答と転送メカニズム を開く

このオプションは選択するようお勧めします。SACK は、一種の最適化機能で、連続したリストにあるデータセグメントに応答できます。これの利点は、転送の最中に、ロス packets だけを再送するよう送信元に通知できる点です。SACK の詳細については、RFC 2018 を参照されますよう、お願いいたします。高速再送メカニズムは、高速再送に先立って、送信データの受信と同じ順序で、繰り返し応答する数を設定します。

### MTU の自動検出（最大転送ユニットの自動検出）

MTU サイズの自動検出 Windows は、固定あるいはデフォルトのサイズの MTU が使え、また MTU のサイズを自動検出に設定も出来ます。このオプションが有効だと、Windows は、MTU を TCP 互換の自動検出の結果に設定して、デフォルトサイズの MTU によって起こる再断片化を取り除き、インターネットトラフィックを改善します。Windows はこのオプションをデフォルトで設定します。

### ブラックホールルーター検出機能を開く

このオプションを選択すると、Windows は、MSS を 536 bytes に制限し、TCP 断片を送信した後に何ら応答が無い場合には「Don't Fragment (DF)」フラグビットを設定します。**匿名ユーザーの接続を制限** これは、ユーザーがコンピュータやサーバーに接続しようとする、必ず、正規のユーザーアカウントとパスワードを要求されるということです。一般の Web サーバーに対しては、この機能は、匿名やゲストでの接続時に、影響があります。

### 毎秒の同時接続数の制限

TCP 接続の増加は、Windows XP SP2 のマルチスレッドアクセス速度をスピードアップさせますが、SP2 の安全なパフォーマンスを低下させます。あなたのコンピュータがウイルスやトロイの木馬に汚染されていたり、新規スレッドを使いすぎていると、ウイルスやトロイの木馬の感染を何の制御も無く、広めることとなります。したがって、最速のダウンロード速度を希望するなら、ネットワークのセキュリティ問題には注意を払ってください。現時点で、最新のアンチウイルスソフトとファイヤーウォールをインストールしてください。一般的なユーザーであれば、最大 TCP 接続数は 10 から 30 にし、BT ユーザーであれば、100 から 500 に設定してください。

---

## Windows クリーンナップ

### レジストリクリーナー

---

## レジストリクリーナーとは？

レジストリは、多くのバージョンの Windows (MS Windows 9x, CE, NT, 2000 XP, Vista および Windows 7) でコンピュータの設定情報を収容するために使用されている中央階層型データベースです。以下の変更はすべてレジストリに記録されています：

- ユーザープロフィール、設定、オプション、初期設定
- コンピュータにインストールされたソフトウェア
- フォルダとアプリケーションのプロパティ設定
- システムにインストールされたハードウェアデバイス
- 使用中のポート
- システムポリシー
- ファイルの関連付け

レジストリは、これらの項目のパスと場所を記録するだけでなく、プロセッサがアプリケーションやハードウェアデバイスを素早く効率的に割り当てて、処理時間を節約できるための、その他の詳細も保管しています。

**警告：** PC のレジストリを手作業で編集する際には、レジストリーにエラーを起こして、コンピュータを使用不能にする恐れもあるので、注意してください。

## いつ、そして、なぜ、レジストリの問題は起こるのか？

システムがまだ新しい場合、通常、レジストリをいじる必要はないでしょう。しかし、しばらく、PC を使っていくと、レジストリへの変更が、以下のようなエラーを起こすことがあります：

- 失われた、破損した、不良な、アプリケーションや Windows のパス、ショートカット、リンク
- 望まないブラウザオブジェクト
- 使われていない、孤立したスタートメニュー項目
- 失われた、または損傷したアプリケーション ID
- 損傷した Active X/COM オブジェクト
- 残ってしまった、不要なファイルとドライバー
- 不要な最近のファイルリスト

しばしば、これらの問題は以下の原因で発生します：

- 体験版を含む、アプリケーションのインストールやアンインストール。
- プログラムによっては、Windows レジストリに見つけにくい痕跡を残して、完全にはアンインストールされません。

- スパイウェア、アドウェア、その他のコンポーネント（自分自身を起動時に呼び出す DLL やプログラム）を埋め込まれた。
- システムに、使用しないけれど削除されていないドライバがある。

## レジストリクリーナーは何をしてくれますか？

レジストリデータベースのクリーンナップは、システムを不要な錘から開放して、より快適により機敏に動作するようになります。

レジストリクリーナーを使えば、プログラムのインストールと削除で残された不要なデータを削除できます。

システムの問題の解析の後、検出された問題を個別に表示して詳細な説明を確認できます。または、自動的にすべての問題を修正するようになります。

クリーンナップの前に、レジストリ全体をバックアップしておけば、クリーンナップ後でも、すべての変更は、数回マウスをクリックするだけで戻せます。

## 使い方

### 1. レジストリスキャンとクリーンナップ

このトピックでは、レジストリクリーナーを使い始める際の助けになる基本的な情報を提供します。

#### ステップ 1: レジストリクリーナーを開始する

メインウィンドウから、Check & TuneUp カテゴリに切り替えてから、レジストリクリーナー をクリックしてプログラムを開始します。

モジュールを起動すると、ウィザードが自動的に開いて、レジストリをスキャンする際の 2 つのオプションを選ぶことができます。〈br2〉

「完全スキャン（推奨）」オプションは、レジストリ全体とすべてのシステムファイルを解析します。

「カスタムスキャン」オプションは、それとは違い、どのカテゴリをレジストリクリーナーが解析すべきかを 選ぶことができます。

完全スキャンを選び、スキャン開始をクリックしてシステムの解析を始めることをお勧めします。

#### ステップ 2: レジストリの解析

レジストリの解析から、開始します。メインインターフェースから、 スキャン開始（または、 再スキャン）をクリックします。

レジストリクリーナーは、システムの解析をしています。プログラムウインドウは、解析される、レジストリの個々のセクションを表示します。エントリの前にある 青い矢印は、対応するセクションが現在分析中であることを示します。緑色のチェックマークは、そのセクションの分析が完了していることを示します。上部にある進捗バーは、分析全体の進捗を示します。

解析が完了するとレジストリの状態のスナップショットと、（もしあれば）レジストリクリーナーが検出した痕跡も見ることができます。

### ステップ 3: エラーや問題をクリーンナップする

素早くクリーンナップを行うには、単に、ツールバーの**クリーニング開始**ボタンをクリックして、作業を実行すると、見つかったすべての問題をクリーンナップします。

クリーニング処理中、進捗バーは、レジストリクリーナーがどの程度、問題処理を進めたかを表示します。レジストリクリーナーモジュールは、1 つずつ処理を行い、不要なエントリとキーをレジストリから取り除きます。クリーンナップが完了するまでお待ちください。

モジュールが処理を完了すると、メッセージが現れて、すべての問題 が取り除かれたことを知らせます。

クリーニングアップ前にあった問題を表示させるには、 詳細をクリックしてください。新しいウインドウが開き、問題の詳細を表示して、どれをクリーンナップするか選ぶことができるので、単にアクションボタンをクリックすれば、それらはクリーンナップされます。

レジストリクリーナーは、デフォルトでは、 検出したすべての問題を修正するよう設定されています。このため、リストの各エントリの四角にチェックが付いています。もし、特定の問題をクリーンしたくなければ、四角を一度クリックして、チェックマークを外してください。 そうすれば、アプリケーションは、その特定の問題をクリーンナップの際に、単に無視します。

選択した問題が正しくクリーンナップされたら、完了ボタンをクリックして、メインインターフェースに戻ってください。

## 2. レジストリのバックアップと復元

レジストリのクリーンナップと以前のレジストリ設定への復元の前に、レジストリのバックアップについて、詳細を学ぶ。

- レジストリのバックアップ

レジストリクリーナーは、クリーンナップの前に、レジストリのバックアップが取れます。レジストリのスキャンをしてもしなくても、レジストリ全体のバックアップを取ることが出来ます。レジストリのスキャンが終って、レジストリクリーナーがスキャン結果を表示したら、**バックアップ 作成**ボタンをクリックして、バックアップを作成できます。

最初にレジストリのバックアップを作成しなかった場合でも、**クリーニング開始**をクリックすると、レジストリクリーナーは、フルバックアップを作成するか、レジストリのクリーンナップ自体をキャンセルするかを尋ねてきます。

- レジストリの復元

いつでも、保存してあるバックアップしたバージョンのレジストリ設定に復元することができます。ナビゲーションパネルの**復元**タブをクリックすると、復元可能なバックアップファイルのリストが表示されます。

画面左上に2つのボタンがあります。これらは、ハイライトされているレジストリバックアップファイルを、削除、または、復元するものです。

ファイルにバックアップした後で、レジストリに変更を加えても、復元機能で変更を戻せることを覚えていてください。バックアップファイルのすべての項目が正しく復元されるよう、すべてのアプリケーションを閉じてください。前回のレジストリ設定に復元したら、レジストリクリーナーは復元が完了したことを知らせます。

**警告：** 古い設定を復元すると、以前に取り除いたかもしれない、そのバックアップに含まれるすべてのエラーも復元されます。

---

## ディスククリーナー

---

ジャンクファイルや不要なファイルとは何でしょうか？

Windows アプリケーションは、データを一時的に保存するために、ハードディスク上に、多くのファイルを作成します。これらのファイルは、アプリケーションが終了する際に、削除されるものと想定されています。しかし、しばしば、プログラムのエラーや、設計上の不注意、システムのリセットや適切に終了さ

れなかったり、他のアプリケーションの無応答状態や強制終了により、削除されないことがあります。時が経つに連れ、ジャンクと不用なファイルはメガバイト単位の無駄なハードディスクの領域を占め、エラーを引き起こす可能性のある、ドライブのクロスリンク参照になることがあります。

## なぜ、ディスククリーンアップを使うのか

時が経つに連れ、ジャンクと不用なファイルはメガバイト単位の無駄なハードディスクの領域を占め、エラーを引き起こす可能性のある、ドライブのクロスリンク参照になることがあります。ディスククリーナーは、ハードディスクから、不用なファイルと 空き領域を 簡単に見つけられるようにします。

## 使い方

このトピックでは、ディスククリーナーを使い始める際の助けになる基本的な情報を提供します。

### ステップ 1: ディスククリーナーを開始する

メインウィンドウから、**Check & TuneUp** カテゴリに切り替えてから、**ディスククリーナー** をクリックしてプログラムを開始します。

モジュールを起動すると、ウィザードが自動的に開いて、**すべてのディスクをスキャン**、あるいは、ディスクを直接指定して選ぶことができます。

### ステップ 2: ディスクをスキャンする

ハードドライブの解析を起動して開始する。メインインターフェースから、**スキャン開始**（または、**再スキャン**）をクリックします。

ディスククリーナーは、ディスクの解析とスキャンをします。プログラムウィンドウは、解析する個々のセクションを表示します。エントリの前にある 青い矢印は、対応するセクションが現在分析中であることを示します。緑色のチェックマークは、そのセクションの分析が完了していることを示します。上部にある進捗バーは、分析全体の進捗を示します。

ディスクのスキャン中でも、**キャンセル**をクリックすることで中止出来ます。

### ステップ 3: 不要なファイル（ジャンクや孤立ファイル）をクリーニングする

分析が完了すると、ディスクの状態のスナップショットを見ることができて、（可能な場合に）どの程度の領域を 空けられるかを見ることができます。

**すぐにクリーンアップ**を選ぶと、不要なファイルを完全にクリーンアップできます。クリーンアップする項目をカスタマイズするには、**詳細**をクリックして、



項目のリストをご覧ください。新しいウインドウが開き、カテゴリの詳細を確認して、ボタンをクリックするだけでクリーンナップする項目を選択できます。clean. その 項目の詳細については、クリックすると表示されます。そうすると、その 項目の完全な詳細が ウインドウのトップに表示されます。

ディスククリーナーは、デフォルトでは、検出した すべての不要なファイルをクリーンナップするよう設定されています。このため、リストの各エントリの四角にチェックが付いています。もし、特定の 履歴をクリーンしたくなければ、四角を一度クリックして、チェックマークを外して、そして **確認** ボタンをクリックしてください。そうすれば、アプリケーションは、その特定の項目をクリーンナップの際に、単に無視します。

作業が完了すると、 **完了** ボタンをクリックして、メインインターフェースに戻ることが出来ます。

---

## インターネットプライバシークリーナー

---

Web をブラウズする度に、一時ファイルやその他の不要なファイルがハードディスクに保存されます。単純に、ブラウザのキャッシュや一時フォルダからファイルを削除するだけでは、それらの履歴を完全に抹消することは出来ません。これらの証拠は、あなたに知られることなくインターネットやその他の方法で簡単に覗き屋に暴露されることがあります。

インターネットプライバシークリーナーツールを使い、安全確実に インター一時ファイルネット、Cookie、履歴ファイルから、このような残骸を綺麗に取り除き、ドライブの空き容量を増やして、Web 上のプライバシーも保護することが出来ます。

### 使い方

#### ステップ 1: インターネットプライバシークリーナーを起動

メインウインドウから **Check & TuneUp** カテゴリに切り替えて、Windows クリーンナップを選び、**インターネットプライバシークリーナー** をクリックして起動します。

モジュールを起動すると、ウィザードが自動的に開いて、ハードドライブをスキャンする際の 2 つのオプションを選ぶことが出来ます。

「**完全スキャン**」（推奨）オプションは、ハードドライブ全体とすべてのシステムファイルを解析スキャンします。「**カスタムスキャン**」オプションは、それとは違い、どのカテゴリをインターネットプライバシークリーナーが解析すべきかを選ぶことができます。どのカテゴリをスキャンするかを下の項目から指定できます：

- ブラウザの一時ファイル
- ブラウザの Cookies
- ブラウザの履歴
- ブラウザの最近の URL
- ブラウザのインデックスファイル（開始時のアクティビティ）
- ブラウザのダウンロードパス
- ブラウザのオートコンプリート

**完全スキャン**を選び、**スキャン開始**をクリックしてシステムの解析を始めることをお勧めします。

## ステップ 2: インターネットプライバシーをスキャン中

ハードドライブの解析を起動して開始する。メインインターフェースから、**スキャン開始**（または、**再スキャン**）をクリックします。

インターネットプライバシークリーナーは、システムの解析をしています。プログラムウインドウは、解析する個々のセクションを表示します。エントリの前にある 青い矢印は、対応するセクションが現在分析中であることを示します。緑色のチェックマークは、そのセクションの分析が完了していることを示します。上部にある進捗バーは、分析全体の進捗を示します。インターネットのアクティビティの履歴のスキャン中でも、スキャンを **キャンセル** をクリックすることで中止出来ます。

## ステップ 3: インターネットプライバシーのクリーニング中

分析が完了すると システム の状態のスナップショットを見ることができて、（もしあれば）インターネットアクティビティの履歴を Internet Privacy Cleaner が検出した分だけ確認できます。

素早くクリーンナップを行うには、単に、**クリーニング開始**ボタンをクリックして、作業を行わせます-この場合、見つかったすべての痕跡をクリーンナップします。

クリーニング処理中、進捗バーは、インターネットプライバシークリーナーがどの程度処理を進めたかを表示します。インターネットプライバシークリーナーモジュールは、項目を1つずつ処理を行い、すべての インターネットアクティビティの履歴を、システムから取り除きます。クリーンナップが完了するまでお待ちください。

モジュールが処理を完了すると、メッセージが現れて、すべての履歴 が抹消されたことを知らせます。

クリーニングアップ前にあった問題を表示させるには、 **詳細**をクリックしてください。新しいウィンドウが開き、履歴の詳細を表示して、どれをクリーンナップするか選ぶことができるので、単にアクションボタンをクリックすれば、クリーンナップされます。

インターネットプライバシークリーナーは、デフォルトでは、見つかったすべての履歴をクリーンナップ するように、各エントリの前にあるチェックボックスにチェックが設定されています。もし、特定の項目をクリーンナップしたくなければ、四角を一度クリックして、チェックマークを外してから、確認ボタンをクリックしてください。そうすれば、アプリケーションは、その特定の項目をクリーンナップの際に、単に無視します。

選択した項目が正しくクリーンナップされたら、**完了**ボタンをクリックして、メインインターフェースに戻ってください。

---

## コンピュータープライバシークリーナー

---

コンピュータを使用するたびに、ハードディスク上の操作、スタートメニュー、最近の書類等を自動的に記録します。そのため、多くのコンピュータ使用の痕跡が残され、他者から容易にアクセスされる恐れがあります、そのようなプライバシーが漏えいした時に損害を受ける恐れがあります。

**なぜ、コンピュータープライバシークリーナーを使うのか？**

コンピュータープライバシークリーナーはコンピュータをスキャンし解析して、不要なファイルと痕跡を消去して、システムのパフォーマンスを向上させ、プライバシーも守ります。

**使い方**

**ステップ1：コンピュータープライバシークリーナーを起動**

メインウィンドウから **Check & TuneUp** カテゴリに切り替えて、Windows クリーンナップを選び、**コンピュータープライバシークリーナー** をクリックして起

動します。モジュールを起動すると、ウィザードが自動的に開いて、システムをスキャンする際の2つのオプションを選ぶことができます。

「**完全スキャン（推奨）**」オプションは、システム全体とすべてのシステムファイルを解析します。

**カテゴリ選択** オプションは、それとは違い、コンピュータプライバシークリーナーに解析させたいカテゴリを選択できます。どのカテゴリをスキャンするかを下の項目から指定できます：

- ごみ箱を空にする
- 一時ファイル
- クリップボード
- メモリダンプ
- ディスクファイルの断片のチェック
- Window ログファイル
- デスクトップショートカット
- 最近の書類
- スタートメニュー内の起動の記録（再起動時のアクティビティ）
- オフィスの履歴
- スタートメニューショートカット

**完全スキャン**を選び、**スキャン開始**をクリックしてシステムの解析を始めることをお勧めします。

## ステップ 2: コンピュータプライバシーの解析中

レジストリの解析から、開始します。メインインターフェースから、**スキャン開始**（または、**再スキャン**）をクリックします。

**コンピュータプライバシークリーナー** は、システムの解析を行います。プログラムウィンドウは、解析される、システムの個々のセクションを表示します。エントリの前にある青い矢印は、対応するセクションが現在分析中であることを示します。緑色のチェックマークは、そのセクションの分析が完了していることを示します。上部にある進捗バーは、分析全体の進捗を示します。

分析が完了するとシステムの状態のスナップショットと、（もしあれば）**コンピュータプライバシークリーナー**が検出した痕跡（トレース）も見ることができます。

## ステップ 3: コンピュータの痕跡とプライバシーをクリーニング

スキャンして数分後には、結果が出ている筈です： 状態のスナップショットと、（可能な場合には）どれだけのトレースをクリーニング出来るかを見ることができます。

**クリーニング開始** をクリックすると、コンピュータアクティビティトレースの完全なクリーンナップを実行します。クリーニングする前にバックアップすることも出来ます、バックアップする場合には**バックアップ作成**をクリックしてください。

クリーンナップする項目をカスタマイズするには、詳細をクリックして、項目のリストをご覧ください。新しいウィンドウが開き、カテゴリの詳細を確認して、ボタンをクリックするだけでクリーンナップする項目を選択できます。clean. その項目の詳細は、クリックすると表示されます。そうすると、その項目の完全な詳細が ウィンドウのトップに表示されます。

**コンピュータプライバシークリーナー** は、デフォルトでは、 検出したすべての不要なファイルを クリーニングするよう設定されています。このため、リストの各エントリの四角にチェックが付いています。もし、特定の 履歴をクリーンしたくなければ、四角を一度クリックして、チェックマークを外して、そして **確認** ボタンをクリックしてください。そうすれば、アプリケーションは、その特定の項目をクリーンナップの際に、単に無視します。

完了しましたら、 **完了** ボタンをクリックして メインインターフェースに戻ってください。

---

## スマートアンインストール

---

コンピュータ内にある、使用しなくなったプログラムは、不必要にディスク容量とメモリを占有します。正しくないインストーラは、他のソフトウェアと衝突して、PC 全体のパフォーマンスを低下させることがあります。スマートアンインストールは、どんなソフトウェアもアンインストールし、たとえ、正しく削除されなかったプログラムでも削除します（悪意あるプログラムやアンインストーラが壊れてしまったもの）。システムに影響している不正なアンインストールファイルも削除できます。スマートアンインストールの目的は、不要なプログラムをシステムから完全に削除することです。スマートアンインストールは、クリックだけで使えます。

### 使い方

#### ステップ1：スマートアンインストールを起動

メインウィンドウから **Check & TuneUp** カテゴリに切り替えて、Windows クリーンアップを選び、**スマートアンインストール** をクリックして起動します。

### ステップ 3: 不要なプログラムを選択する

メインインターフェースで、ウィンドウには、インストールされたプログラムが、その名称、サイズ、使用頻度とともに表示されています。

また、インストールされたプログラムの詳細（製造者、サイズ、場所、インストール日時、使用頻度とパス）が名前をクリックした下に表示されます。プログラムが必要かどうかわからなければ、スマートアンインストールで、使用頻度順に並べ替えて表示できます。Only click on the box once to sign the checkmark before **使用頻度の低いソフトウェアを絞り込む** の前のチェックを一度クリックすると、リストが新しい順序で表示されます。

アンインストールしたいプログラムが一覧に表示されない場合、**ここをクリック Click here** で、プログラムを指定してください。プログラムの指定が出来たら、自動的に解析を行います。

### ステップ 3: プログラムのアンインストール

削除したいプログラムに付いている **アンインストール** をクリックします。ウィザードが起動して、次のステップを案内します：

- アンインストールの準備 / プログラムの場所の特定
- Windows レジストリをスキャン
- インストール先フォルダのスキャン

アンインストールボタンをクリックした後、プログラムとそのコンポーネントを完全に消去するかそうでないかを選べます。**はい** をクリックするとアンインストールは始まって、いいえで戻ります。

### ステップ 4: 残留ファイルの削除

Windows レジストリスキャンの数秒後、新規のウィンドウが開きます。レジストリエントリと孤立ファイルのリストから、削除したい項目を選びます。**次へ** をクリックして削除を続けます。**キャンセル** をクリックして、削除を中止できます。

支障なく 完了しましたら、**完了** ボタンをクリックして メインインターフェースに戻ってください。

---

# IE プラグインクリーナー

---

## プラグインとは？

プラグインは、ソフトウェアモジュール（部品）で、アプリケーションに機能を追加します。多くのアプリケーション、Eudora や、フォトショップ、FireFox や Internet Explorer 等のブラウザでは、プラグインを採用しています。

プラグインは、多くの異なった機能を提供できます。Web ブラウザでの、典型的なプラグインの使い方として、表示可能なフォーマットを追加（例えば、Acrobat 書類、QuickTime や Adobe Flash 動画等）するために使われます。Web ブラウザは、未知のフォーマットに遭遇した時には、対応するプラグインを探します。プラグインは、独自のビューアーを、ブラウザのウィンドウとして、あるいはフレーム（それ自身 HTML を含むウィンドウ）に埋め込んで起動したり、バックグラウンドで実行します。プラグインは、他のプログラムと同様に稼動します。

## プラグインはどこから来るのですか？

多くのものはインターネット経由でやってきて、通常、コンピュータにインストールする前に、ユーザー（あなた）の許可が必要になっています。しかし、知らないうちにインストールされるものもあります。プラグイン（アドオン）が、許可を与えてインストールしている他のプログラムの一部だった場合に起こります。あるものは、Microsoft Windows と一緒にインストールされます。

## なぜ、IE プラグインクリーナーを使うのか？

通常は、プラグインは便利なものですが、稀に、予期せず、Internet Explorer を強制終了させてしまうことが起きます。もしプラグインがこの問題を常に引き起こすのなら、IE プラグインクリーナーで削除することが出来ます。

## 使い方

### ステップ 1: プラグインクリーナーを開始する

Check & TuneUp モジュールから、プラグインクリーナーをクリックして、開始します。

### ステップ 2: IE の解析

IE の解析から、開始します。メインインターフェースから、スキャン開始 で IE プラグインのスキャンを始めます。キャンセル をクリックして、スキャンを止めることが出来ます。

### ステップ 3: プラグインの削除

IE のスキャン後、スキャン結果を確認できます。削除したいプラグインを選択して、**削除** ボタンをクリックすると、削除されます。削除処理中に止めたくなったら、**キャンセル** ボタンを押してください。

支障なく 完了しましたら、**完了** ボタンをクリックして メインインターフェースに戻ってください。削除されたプラグインには、リスト上で緑の「削除済み」マークが付いています。

---

## ショートカットクリーナー

---

破損したショートカットは、通常のコンピュータの使用による、一般的な現象（結果）s です。ターゲットの場所が移動したり、削除されると、簡単に壊れてしまいます。使えないことに加えて、破損したショートカットは、PC を散らかして、Windows の処理に過重な負荷をかけます。

ショートカットクリーナーは、スタートメニュー、クイックラUNCHバーとデスクトップにあるショートカットを検証して、それらを整理された状態に保ちます。もはや存在しないプログラムを取り除く手助けをします。ショートカットクリーナーを使うことで、 デスクトップインターフェースをより使いやすくすることが出来ます。

### 使い方

#### ステップ 1: ショートカットクリーナーを起動

メインウィンドウから **Check & TuneUp** カテゴリに切り替えて、Windows クリーンナップを選び、**ショートカットクリーナー** をクリックして起動します。

#### ステップ 2: ショートカットをスキャン

**スキャン開始**で開始します。不正なショートカットを探して コンピュータ（デスクトップ、スタートメニュー、クイック起動バー）とプログラムをスキャンします。

上部にある進捗バーは、分析全体の進捗を示します。スキャン完了時に、スキャン結果を見ることが出来ます。



完了前に処理を中止するには、**キャンセル**をクリックします。最終の結果スクリーンが自動的に開き、キャンセル時の結果が表示されます。

### ステップ3: ショートカットをクリーニング

数秒後、不正なショートカットの一覧を表示します。どれを削除するか選んで、**クリーニング開始** で削除できます。クリーニング中でも、**キャンセル**をクリックすることで中止出来ます。

支障なく 完了しましたら、**完了**ボタンをクリックして メインインターフェースに戻ってください。

---

## Windows カスタマイズ

### IE 修復

---

IE 修復は、IE の問題を修正し、IE の機能を向上させます。3つの機能が含まれてます: **シンプルリペア**、**ディープクリーンリペア**、そして、**リインストールクリーンリペア**です。必要に応じて、どれか一つの IE 修復機能を選択することが出来ます。

#### 使い方

##### ソリューション 1: シンプルリペア

シンプルリペアは、簡単に IE の設定をカスタマイズでき、IE をもっと安全に便利に使用できるようにします。

- **デフォルトのブラウザ設定**  
プルダウンメニューで、インストールしたブラウザの中から、デフォルトのブラウザを選ぶことが出来ます。
- **ホームページ設定**  
ホームページは、IE を開いた時に、最初に自動的に開く web サイトのことです。ここでは、好きなホームページを設定したり、空白を使用す

ることができます。空白を使用をクリックして、空白のページが設定することも、ホームページのアドレスを入力することも出来ます。

- **デフォルトダウンロードディレクトリ**

web ページから記事や何かの項目をダウンロードする際に、度々、適切なディレクトリを保存先に指定するよう尋ねられるのであれば、IE のデフォルトディレクトリを、設定あるいは変更する必要があります。単に、既存のディレクトリを入力するか、参照 をクリックして、ダイアログで保存先のフォルダを指定してください。

- **IE ファイルメニューで「名前をつけて保存」**

web ページから記事や何かの項目をダウンロードする際に、度々、適切なディレクトリを保存先に指定するよう尋ねられるのであれば、デフォルトディレクトリを、設定あるいは変更する必要があります。

既存のディレクトリを入力するか、参照 をクリックして、ダイアログで保存先のフォルダを指定してください。

選択したら、適用 ボタンをクリックして修復を開始してください。IE の修復が行われましたら、完了ボタンをクリックしてメインインターフェースに戻ってください。

## ソリューション 2: ディープリペア

ディープリペアは、IE のホームページ、IE のアドレスリスト、レジストリ、IE のコンテキストメニュー、このステップで見られる IE のソースを修復することが出来ます。修復した後では、IE のアプリケーションの設定は以下のようになります：

1. ホームページ：空白を使用
2. コンテントパスワード：無し
3. アドレスリスト：無し
4. コンテキストメニュー：有効
5. ソース：有効

単に、次へをクリックすると、IE をリストアし、キャンセル をクリックすると戻ることが出来ます。

IE の修復を行われましたら、完了ボタンをクリックしてメインインターフェースに戻ってください。

## ソリューション 3: ブラウザの再インストール

ソリューション 1 とソリューション 2 による IE の修復に失敗しているなら、IE を再インストールするか、FireFox、Google Chrome 等の他のブラウザに切り替えることを提案します。

---

## 右クリックメニュー修復

---

コンテキストメニューは、オブジェクト、ファイル、フォルダ、アイコンを右クリックしたときに現れる小さいなメニューのことです。例えば、デスクトップアイコンを右クリックすると、もし、Norton Antivirus がインストールされていれば、メニューに、ウイルスをスキャンするためのメニュー項目も表示されます。残念なことに、非常に多くのアイコンがあります。しかし、多くの場合、コンテキストメニューに居座るプログラムは嫌われます。

右クリックメニュー修復を使って、右クリックメニューの使い勝手をカスタマイズできます。3つの機能があります：**新規メニュー管理**、**その他の右クリックメニュー** そして **IE コンテキストメニュー** どれか1つを選び、**開始**をクリックするとカスタマイズできます。

### 使い方

#### 1. 機能1: 「新規」メニュー管理

デスクトップの空白の領域で右クリックすると、デスクトップコンテキストメニューが開きます。マウスを、「新規」に移動すると、新規メニューを見ることができます。デスクトップコンテキストメニューをカスタマイズすることにより、作業効率を向上させることができます。

新規メニューから削除したい項目を選択して、**削除** ボタンをクリックして削除するか、**キャンセル**を選んで取り消せます。

削除した項目を復元するには、ここをクリックボタンをクリックして、バックアップファイルから復元してください。

#### 2. 機能2: その他の右クリックメニュー

特定のアイコン（マイコンピュータ、フォルダやファイル、マイネットワーク、ごみ箱）で右クリックすると、右クリックメニューを表示されます。私たちが提供するよく使われる機能のショートカットオプションを追加することにより、作業効率を大幅に向上させることができます。

リストの項目をすべて選択、または1つずつ必要なだけ選択することが出来ます。

選択したら、**適用** ボタンをクリックして修復を開始するか、**キャンセル**で戻ってください。

#### 3. 機能3: IE 右クリックメニュー

何らかのソフトウェアによってIEのコンテキストメニューに追加された外部項目を管理します。不要なプログラムを選んで、IEのコンテキ

ストメニューに表示しないように出来ます。  
必要なだけ項目を選んで、削除ボタンで削除できます。  
IE 右クリックメニューをデフォルト設定に戻したい場合は、ここをクリックで復元できます。

---

## Favorites To Go

---

### なぜ、 Favorites to Go を使うのか

Favorites（お気に入り）、あるいは、ブックマークは、頻繁に閲覧する Web ページへのリンクを管理する便利な方法です。 Favorites to Go を使うと、あなたのお気に入りを簡単に 携帯デバイスにバックアップして、どこでも自分のお気に入りを使うことが出来ます。

### 使い方

インポート/エクスポートウィザードを使うと、IE から、お気に入りや、フィード、クッキー等の情報を、他のアプリケーションや、コンピュータ上のファイルとして、インポートやエクスポートできます。

#### ステップ 1: IE お気に入りをエクスポート/インポートを選択

用途に応じて、 IE お気に入リエクスポートを選択するか または IE お気に入リインポートを選択して、次へをクリックして続けるか、 キャンセルをクリックしてウィザードを終了することが出来ます。

#### ステップ 2: ディレクトリを選択します

1. IE お気に入リエクスポートを選んだ場合には、既存のディレクトリを入力するか、 参照をクリックして、お気に入りをエクスポートする保存先フォルダを指定して、 次へをクリックして続けるか、戻るをクリックして前の画面に戻るか、キャンセルで終了することが出来ます。
2. IE お気に入リインポートを選んだ場合には、既存のディレクトリを入力するか、 参照をクリックして、お気に入りが保存されているインポート先の保存フォルダを指定して、 次へをクリックして続けるか、戻

るをクリックして前の画面に戻るか、キャンセルで終了することが出来ます。

**ステップ3:** 次へをクリックして、お気に入りをエクスポートかインポートを行います

1. IE Favorite エクスポートを選んだ場合には、次へをクリックして、ファイルやアドレスディレクトリにエクスポートするか、戻るで前の画面に戻るか、キャンセルで終了できます。
2. IE Favorite インポートを選んだ場合には、次へをクリックすると、インポートされたお気に入りのリストが表示され、そして再度次へで完了します。もちろん、戻るをクリックして前の画面に戻ることも、キャンセルで終了することも出来ます。

支障なく 完了しましたら、完了ボタンをクリックして メインインターフェースに戻ってください。

---

## Privacy & Security

### Personal Safe

---

Personal Safe は、選択したディスクから個人専用の領域を分割します。そうすると、マイコンピュータ内に、新しく「Personal Safe」という名前のディスクが現れます。重要なファイルや、個人的な動画、IM チャットの記録、経理データ等を保存することが出来ます。パスワード無しには、この領域の存在自体にすら気づくことがありません。この新技術は、以前のものに比べて、さらに簡便で安全に個人のファイルを保護することが出来ます。

---

### Personal Safe とは

Personal Safe は、選択したディスクから個人用の領域を分離し、個人の映画、IM のチャット記録、財務データ等の個人のファイルを保存できるようにしま

す。パスワード無しには、このディスクの存在自体にすら気づくことがありません。

Personal Safe のインターフェース：



## Safe 領域の作成方法

Personal safe は、あなたのディスクから特別な領域を、暗号化領域として分割して、プライベート情報を保存できるようにします。パスワード無しには、誰も、この領域にアクセスできません。

もし初めて、この機能を使用する場合、使用する前に、Safe 領域を作成する必要があります。**Safe を作成**をクリックすると、Safe を作成するためのウィザードウィンドウが開きます。

作成のプロセスは以下の通りです：

1. Safe の場所を選択してください  
ロケーションリストから、Safe を作成するパーティションを選択できます。

注意: Safeに必要な最小のサイズは、20Mです、20M以上の場所を選んでください。

2. Safeのサイズを選択してください

スライダをドラッグして、Safeのサイズを選ぶことも、テキストボックスに直接入力することも出来ます、最小サイズは20Mで、最大サイズは、作成場所の空き容量までです。

注意: コンピュータに、Safeを1つだけ作成出来ます、複数は作成出来ません。重要なデータに十分な空きが残るよう、必要な safe のサイズを選択してください。

3. Safeのパスワード設定

パスワードを設定する必要があります。パスワードは、6から20桁の任意の英数字の組み合わせです。パスワードは、safeを開いたり削除する際に使われますので、パスワードは慎重に管理してください。**パスワードを表示**をクリックすると、パスワードは、入力中、テキストボックスに表示されます。

4. safeをフォーマットする

作成した safe をフォーマットします、ファイルシステムは、NTFSです。フォーマット処理中に、フォーマットの取り消しを選択することができます。**キャンセル**を選ぶと、safeの作成は失敗になり、元の状態に戻ります。

5. 作成を完了

safeの作成が完了したなら、すぐに、safeを開いて使用することができます。

---

## 自分の Safe の廃棄方法

現在の safe を破棄する、または、safe を再作成するには、**Safe を破棄**をクリックします。パスワード確認ダイアログボックスが開きます。パスワードを入力すると、確認の後、その safe は破棄されます。

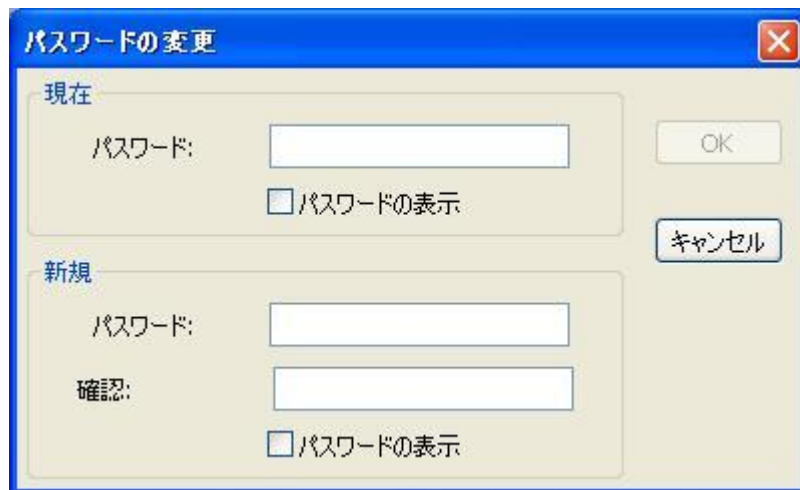
注意:

1. この機能は、その safe 内のすべてのファイルを徹底的に、完全に消去するため、どんなツールを使っても復元できませんので、慎重に使用してください。
2. もし、その safe が開いたまま、あるいは、使用中の場合には、まず、**Safe を隠す**をクリックしてから、破棄してください。

---

## Safe のパスワードの変更方法

Safe のアクセスパスワードを変更します。



ここで、パスワードを変更できます、なお、パスワードは、6 から 20 桁の任意の英文字の組み合わせで、スペースは含みません。

初めに、オリジナルのパスワードを入力し、次に、新しいパスワードを 2 回入力してから、OK をクリックします。

パスワードを表示をクリックすると、パスワードは、入力中、テキストボックスに表示されます。

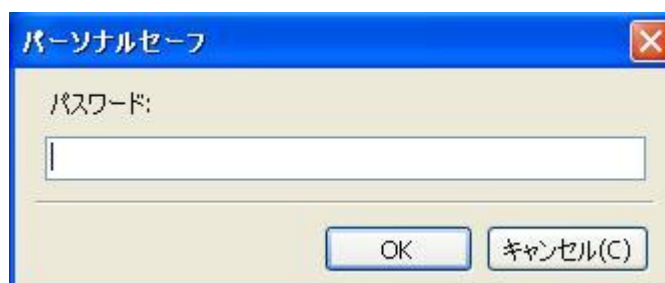
---

## Safe の開き方

safe を自分専用のプライベートな領域として利用するためには、パスワードが必要です。

パスワードがあれば、safe を開くことができます。開かれた safe は、通常の Windows explorer のウインドウとして表示されます。

Safe を開くをクリックすると、パスワード確認のウインドウがポップアップします：



safe に設定したパスワードを入力してください。



注意：パスワードの入力間違いは、24 時間内に、6 回だけ可能です。上の制限を超えると、24 時間以内にはパスワードの入力が出来なくなります（カウントダウンされる残り時間と、最後に間違ったパスワードを入力した時刻からの時間を見ることができます）。24 時間後には、元の状態に戻ります。

safe を開いた後、自分の重要なファイル、プライベートな動画、IM チャット記録、財務データ等を保存することができます。

---

## Safe の隠し方

単に、safe explorer を閉じるだけでは、実際には、「safe の扉を閉じる」ことにはなりません、つまり、そのままでは、パスワードを再入力すること無しに、safe を開くことができます。「Safe を隠す」機能を使えば、safe は隠されて、開くには、パスワード入力が必要になります。

safe を終了する場合、**Safe を隠す**をクリックします。

これで、safe は、マイコンピュータから『見えなく』なりましたので、“Personal Safe”の **Safe を開く**をクリックするか、『右クリックメニュー』を選んで、再度、パスワードを入れる必要があります。

---

## プライバシークリーナー

---

Web をブラウズする度に、一時ファイルやその他の不要なファイルがハードディスクに保存されます。単純に、ブラウザのキャッシュや一時フォルダからファイルを削除するだけでは、それらの履歴を完全に抹消することは出来ません。これらの証拠は、あなたに知られることなくインターネットやその他の方法で簡単に覗き屋に暴露されることがあります。また、コンピュータを使用するたび、コンピュータは、ハードディスク上の操作、スタートメニュー、最近の書類等を自動的に記録します。そのため、多くのコンピュータ使用の痕跡が残され、他者から容易にアクセスされる恐れがあります、そのようなプライバシーが漏えいした時に損害を受ける恐れがあります。

安全で簡単なプライバシーソフトウェアである **プライバシークリーナー** を使うと、ブラウザやその他のコンピュータ上の隠れたファイルに記録されている、

インターネットの使用の痕跡、プログラムの使用（アクティビティ）履歴を安全に削除できます。

## 使い方

### ステップ 1：プライバシークリーナーを起動

メインウィンドウから、**プライバシークリーナー**カテゴリに切り替えてプログラムを起動します。

モジュールを起動すると、ウィザードが自動的に開いて、ハードドライブをスキャンする際の 2 つのオプションを選ぶことができます。

「**完全スキャン**」（推奨）オプションは、ハードドライブ全体とすべてのシステムファイルを解析スキャンします。「**カスタムスキャン**」オプションは、それとは違い、どのカテゴリを**プライバシークリーナー**が解析すべきかを選ぶことができます。どのカテゴリ をスキャンするかを下の項目から指定できます：

- ブラウザの一時ファイル
- ブラウザの Cookies
- ブラウザの履歴
- ブラウザの最近の URL
- ブラウザのインデックスファイル（開始時のアクティビティ）
- ブラウザのダウンロードパス
- ブラウザのオートコンプリート
- ごみ箱を空にする
- 一時ファイル
- クリップボード
- メモリダンプ
- ディスクファイルの断片のチェック
- Window ログファイル
- デスクトップショートカット
- 最近の書類
- スタートメニュー内の起動の記録（再起動時のアクティビティ）
- オフィスの履歴
- スタートメニューショートカット

**完全スキャン**を選び、**スキャン開始**をクリックしてシステムの解析を始めることをお勧めします。

### ステップ 2：スキャンする

ハードドライブの解析を起動して開始する。メインインターフェースから、**スキャン開始**（または、**再スキャン**）をクリックします。

**プライバシークリーナー**は、システムの解析をしています。プログラムウィンドウは、解析する個々のセクションを表示します。エントリの前にある 青い

矢印は、対応するセクションが現在分析中であることを示します。緑色のチェックマークは、そのセクションの分析が完了していることを示します。上部にある進捗バーは、分析全体の進捗を示します。痕跡のスキャン中でも、**キャンセル**をクリックすることで中止出来ます。

### ステップ 3： クリーニング中

分析が完了するとシステムの状態のスナップショットと、（もしあれば）**プライバシークリーナー**が検出した痕跡（トレース）も見ることができます。

素早くクリーンナップを行うには、単に、**クリーニング開始**ボタンをクリックして、作業を行わせます-この場合、見つかったすべての痕跡をクリーンナップします。

クリーニング処理中、進捗バーは、**プライバシークリーナー**がどの程度、問題処理を進めたかを表示します。**プライバシークリーナー**モジュールは、項目 1 つずつ処理を行い、すべての痕跡を、コンピュータから取り除きます。クリーンナップが完了するまでお待ちください。

モジュールが処理を完了すると、メッセージが現れて、すべての履歴 が抹消されたことを知らせます。

クリーニングアップ前にあった問題を表示させるには、**詳細**をクリックしてください。新しいウィンドウが開き、履歴の詳細を表示して、どれをクリーンナップするか選ぶことができるので、単にアクションボタンをクリックすれば、クリーンナップされます。

**プライバシークリーナー**は、デフォルトでは、見つかったすべての履歴をクリーンナップするように、各エントリの前にあるチェックボックスにチェックが設定されています。もし、特定の項目をクリーンナップしたくなければ、四角を一度クリックして、チェックマークを外してから、確認ボタンをクリックしてください。そうすれば、アプリケーションは、その特定の項目をクリーンナップの際に、単に無視します。

選択した項目が正しくクリーンナップされたら、**完了**ボタンをクリックして、メインインターフェースに戻ってください。

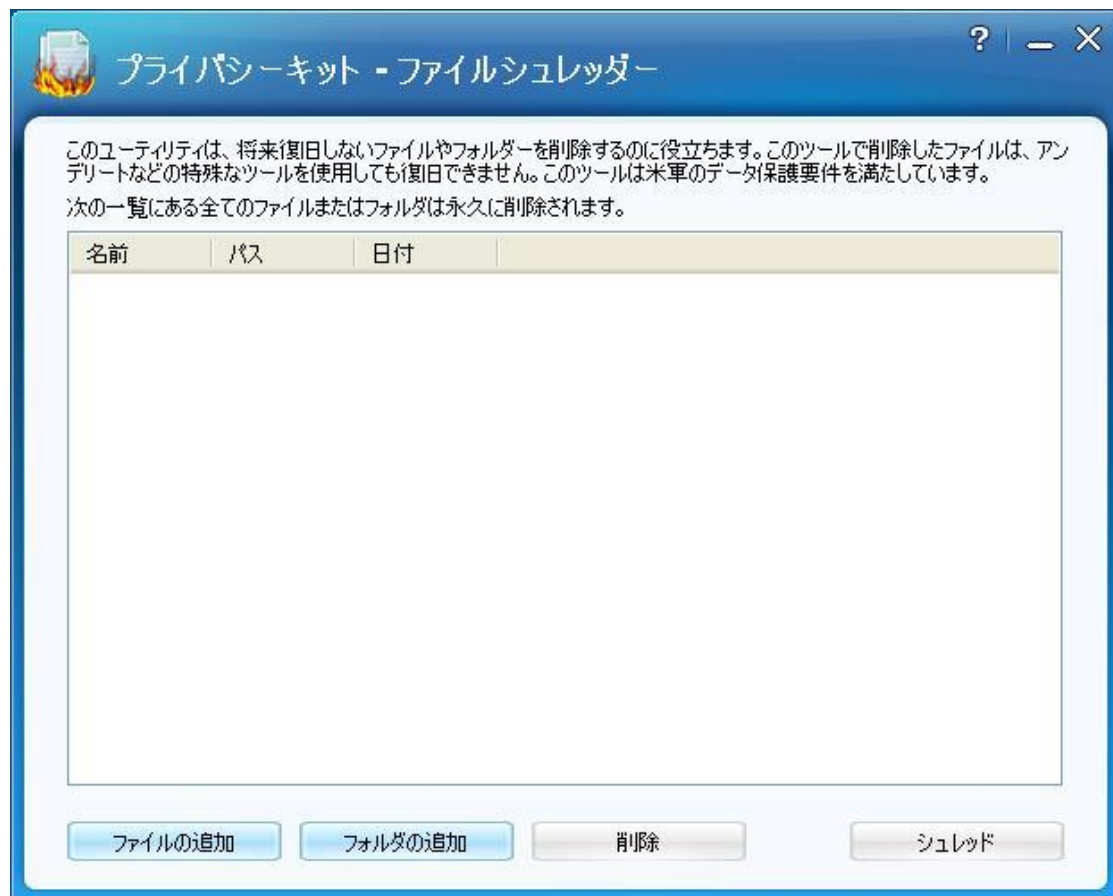
---

## ファイルシュレッダー

---

ファイルシュレッダーは高度なセキュリティツールで、ハードディスク上からファイルやフォルダを永久に消去し、世界中の誰であれ、また、削除ファイル

の復元等の特別なソフトウェアを使ってさえ、このツールで消去されたファイルは復元できません。これは米軍のデータ保護要件を満たしています。



ファイルシュレッダーで裁断されたファイルは、いかなるツールでも復元できません。

#### ファイル追加:

**ファイル追加**をクリックすると、ファイルを開くダイアログボックスが現れます。

裁断したいファイルを選び、**OK** をクリックしますと、ウインドウのリストボックスに、そのファイルの情報が追加されます。

#### フォルダ追加:

**フォルダ追加**をクリックすると、フォルダを参照するダイアログボックスが現れます。

裁断したいフォルダを選び、**OK** をクリックすると、ウインドウのリストボックスに、そのフォルダの情報が追加されます。

## 削除:

特定のファイルやフォルダを選んで、削除をクリックすると、リストから、そのファイルやフォルダを取り除くことができます。

## シュレッド

この処理は、リストにあるすべてのファイルとフォルダを抹消します。抹消されたファイルは、どんなツールでも復元できませんので、処理の前に必ず確認してください。

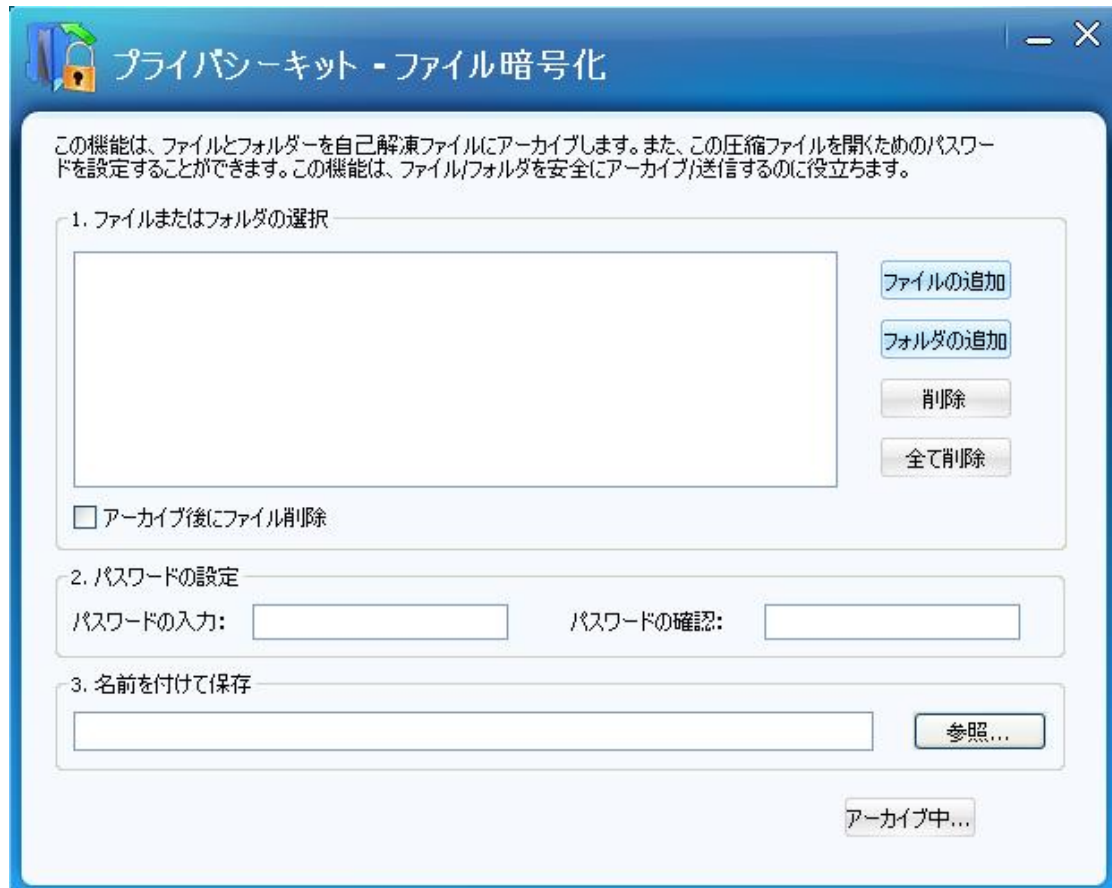
はい をクリックして、処理を行ないます。

---

## ファイル暗号

---

ファイル暗号は、ファイルやフォルダの暗号化を行います。この機能は、ローカルのファイルやフォルダの暗号化をサポートするだけでなく、リムーバブルデバイス（USB デバイスやフラッシュカード等）にあるファイルやフォルダの暗号化も行います。秘密にしたいファイルやフォルダを、ファイル暗号で保護することができます。パスワード無しには、保護されたファイルやフォルダを開くことは出来ません。



ファイルやフォルダを暗号化すると、自己解凍ファイルが作成されます。この機能は、ローカルのファイルやフォルダの暗号化をサポートするだけでなく、リムーバブルデバイス（USB デバイスやフラッシュカード等）にあるファイルやフォルダの暗号化も行います。

ここで暗号化したいファイルやフォルダを、選択します：

**ファイル追加：**

ファイル追加をクリックすると、ファイルを開くダイアログボックスが現れます。暗号化したいファイルを選択します。

**フォルダ追加：**

フォルダ追加をクリックすると、フォルダ参照ウインドウが現れます。暗号化したいフォルダを選択します。

暗号化したいファイルやフォルダを選び、**OK** をクリックしますと、ウインドウのリストボックスに、その情報が追加されます。

**削除／すべて削除：**

特定のファイルやフォルダを選んで、またはリストの内容全部をリストから取り除くこともできます。

### パスワード設定:

ここで、リスト内のすべてのファイルやフォルダの暗号化パスワードを設定します、つまり、複数のファイルやフォルダがリストにある時、それらは、1つの暗号化ファイルに圧縮されます。

パスワードは、任意の文字数字、6 から 20 この組合せです。

パスワードを表示を選択した場合、パスワードは、アスタリスクで隠される代わりに、実際の文字で表示されます。

### 暗号化ファイルの保存場所:

参照をクリックして、暗号化ファイルの保存場所を選択し、テキストボックスにファイル名を入れます;<br1>

<s3>アーカイブ後にファイル削除</s3>オプションを選ぶと、暗号化の後、元のファイルを削除できます。このオプションを選ぶと、元のファイルは削除されます。

上記の設定が終わったら、**アーカイブ**を選ぶと、ファイルやフォルダが暗号化されます。

---

## ディスク管理

### Partition Genius

## 1つのパーティションをクローン

---

パーティションのクローンは、何であれ、パーティション内のすべてのファイルやフォルダーを他のパーティションに転送する機能を提供しています。何であれ望みのパーティションを、対応するすべてのストレージ、同じディスク上

の別のパーティション、リムーバブルハードディスク、USB デバイス、その他に、クローン／複製します。データの損失を心配する必要はありません。

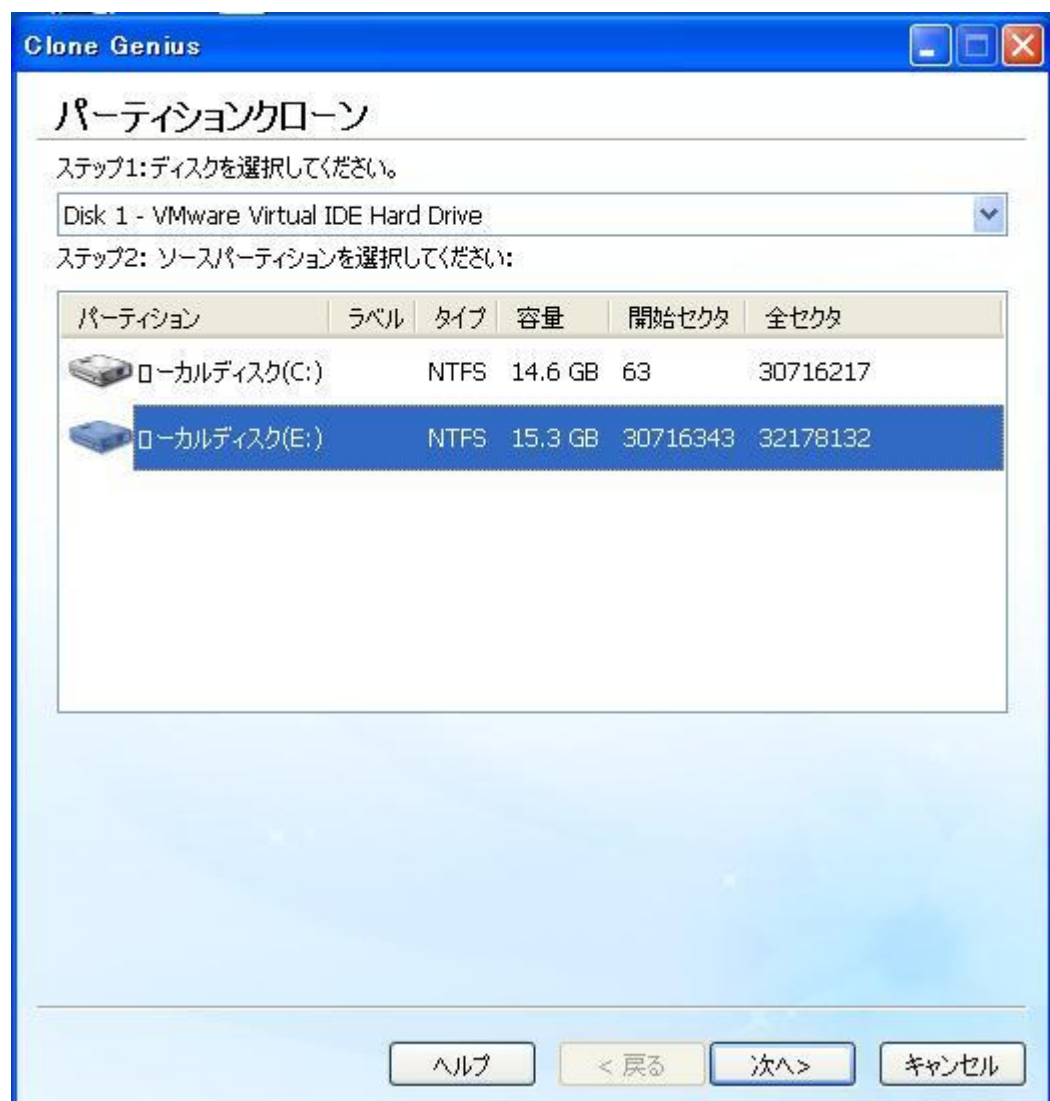
**注意：**

1つのパーティションから他のパーティションに（データを）クローン（複製）すると、元のパーティションのすべてのファイルを、保存先のパーティションにバックアップしていることになります。

**警告：** 保存先パーティションにあるすべてのデータを消去します。初めに、保存先にある重要なデータを（他に）バックアップしてください。

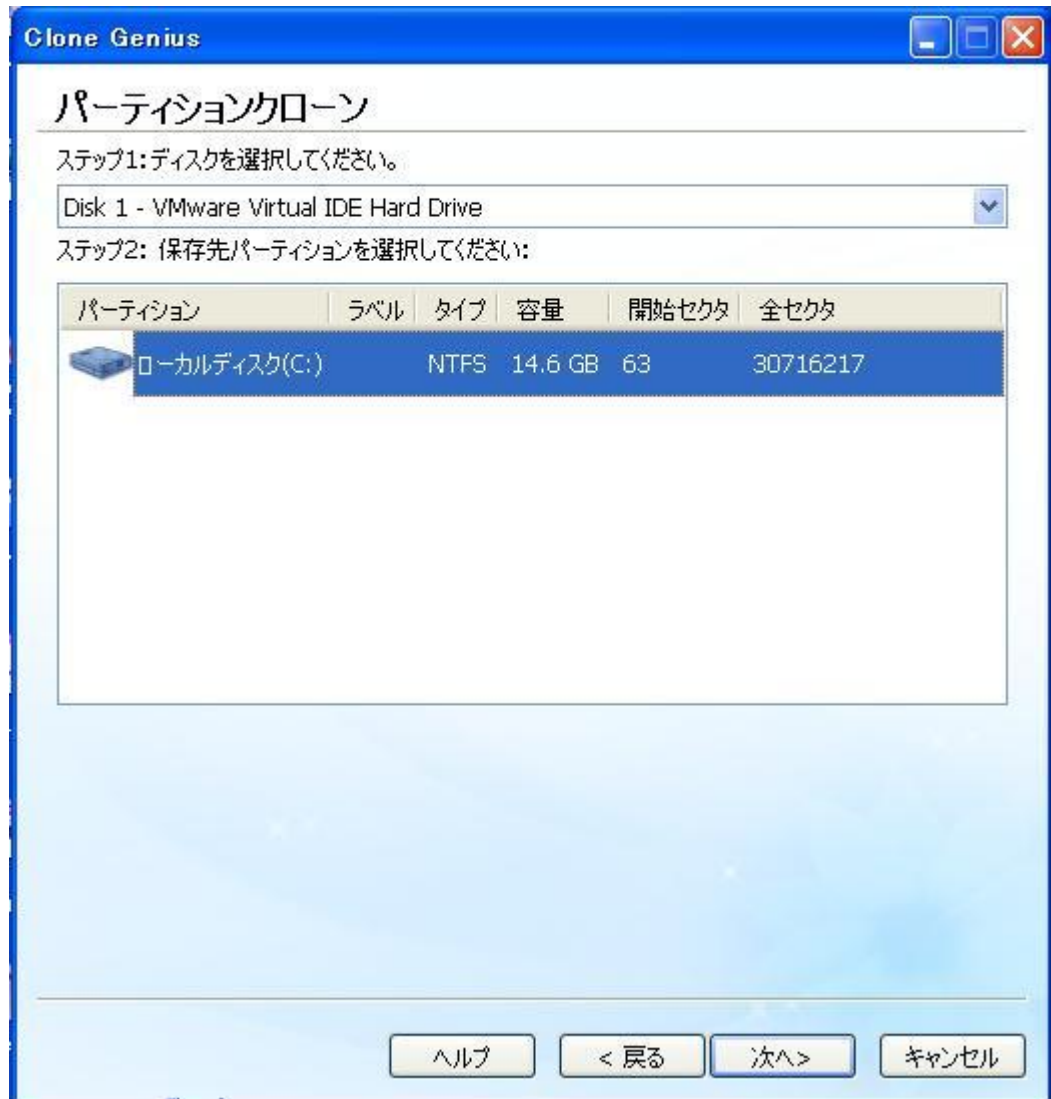
パーティションをクローンするには、次の手順に従ってください：

1. ドロップダウンリストから、ソースパーティションのあるディスクを選んでください。
2. その中から1つのパーティションをソースとして選び、次へをクリックしてください。

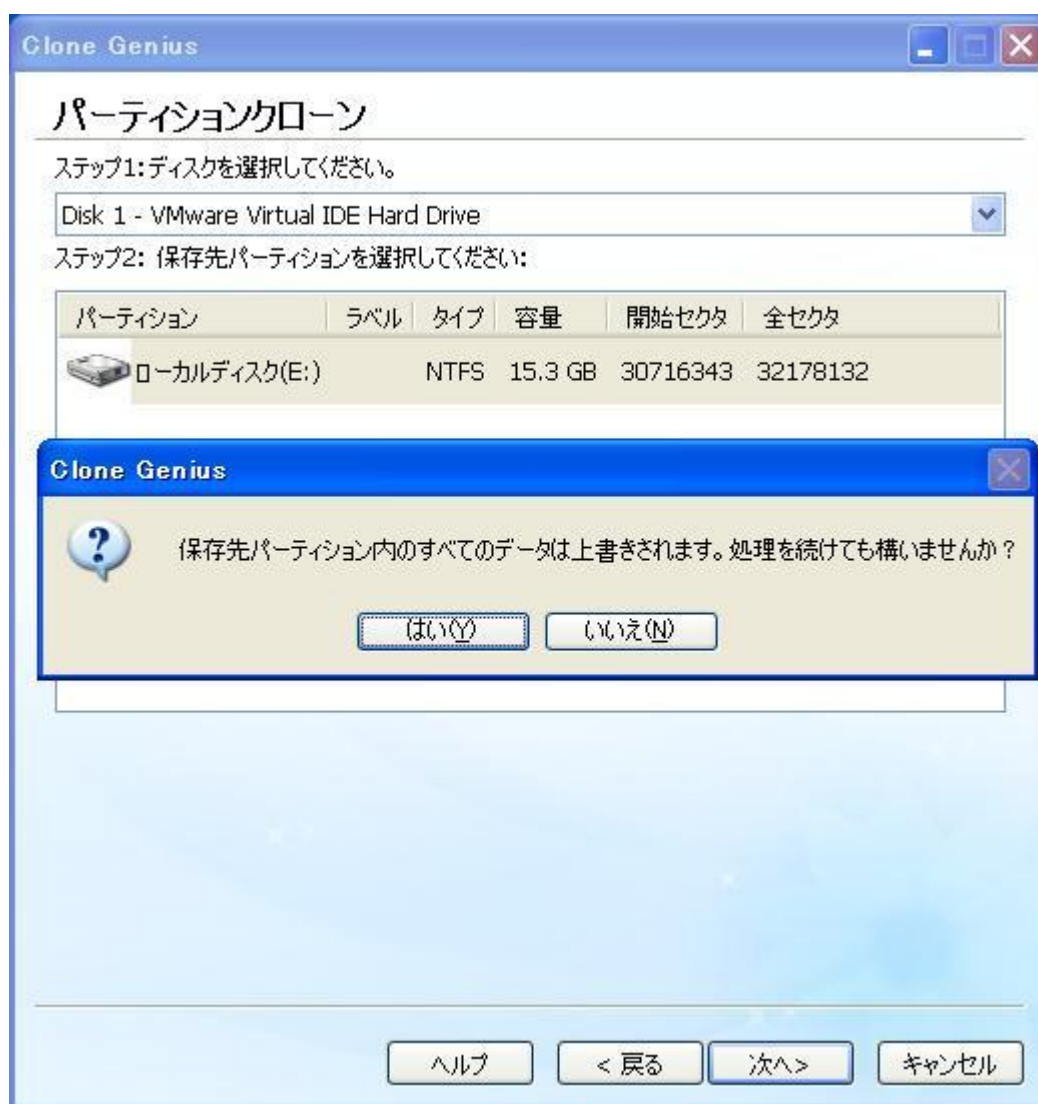




3. ドロップダウンリストから保存先パーティションのあるディスクを選んでください。
4. その中から1つのパーティションを保存先として選び、次へをクリックしてください。



5. 「はい」をクリックすると、「パーティションからパーティションへの」クローンが始まります。  
**注意:** 保存先パーティションにあるすべてのデータは上書き（削除）されます。 バックアップを作成したことを必ずご確認ください。



6. 「OK」をクリックすると、クローンが完了します。

---

## ディスク全体をクローン

---

この機能の最も有用な側面は、古いディスクを置き換えたり、より容量の大きなものにアップグレードできることです。これは、Windows、プログラム、ファイルや個人的な設定のすべてを、新しいディスクに、ほんの数クリックでクローン／複製します。Windows やプログラムの再インストール、Windows の再

設定に無駄な時間を費やす必要はありません。

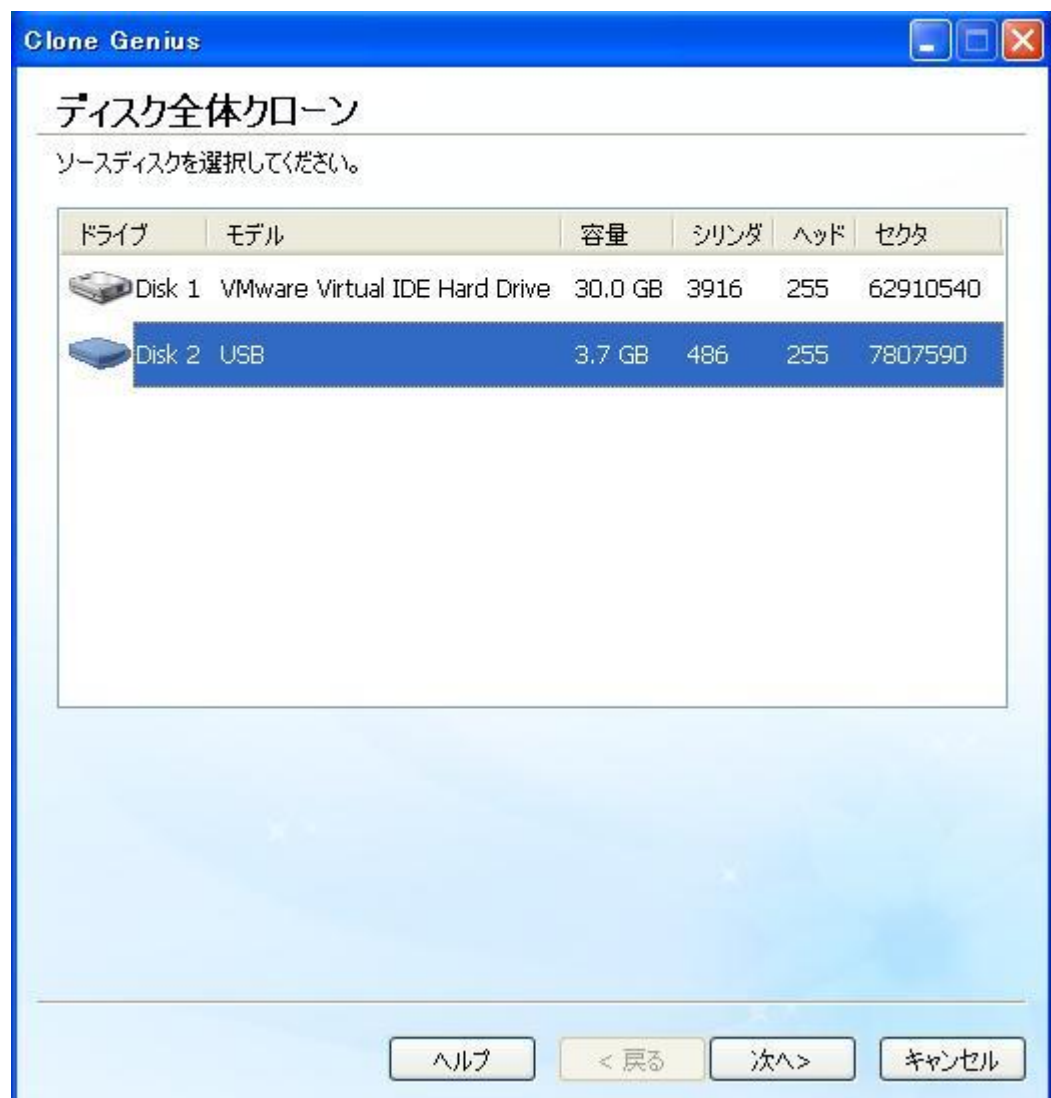
**注意：**

ディスク全体を他のディスクにクローンすると、元のディスクのすべてのファイルもクローン先ディスクにバックアップすることになります。

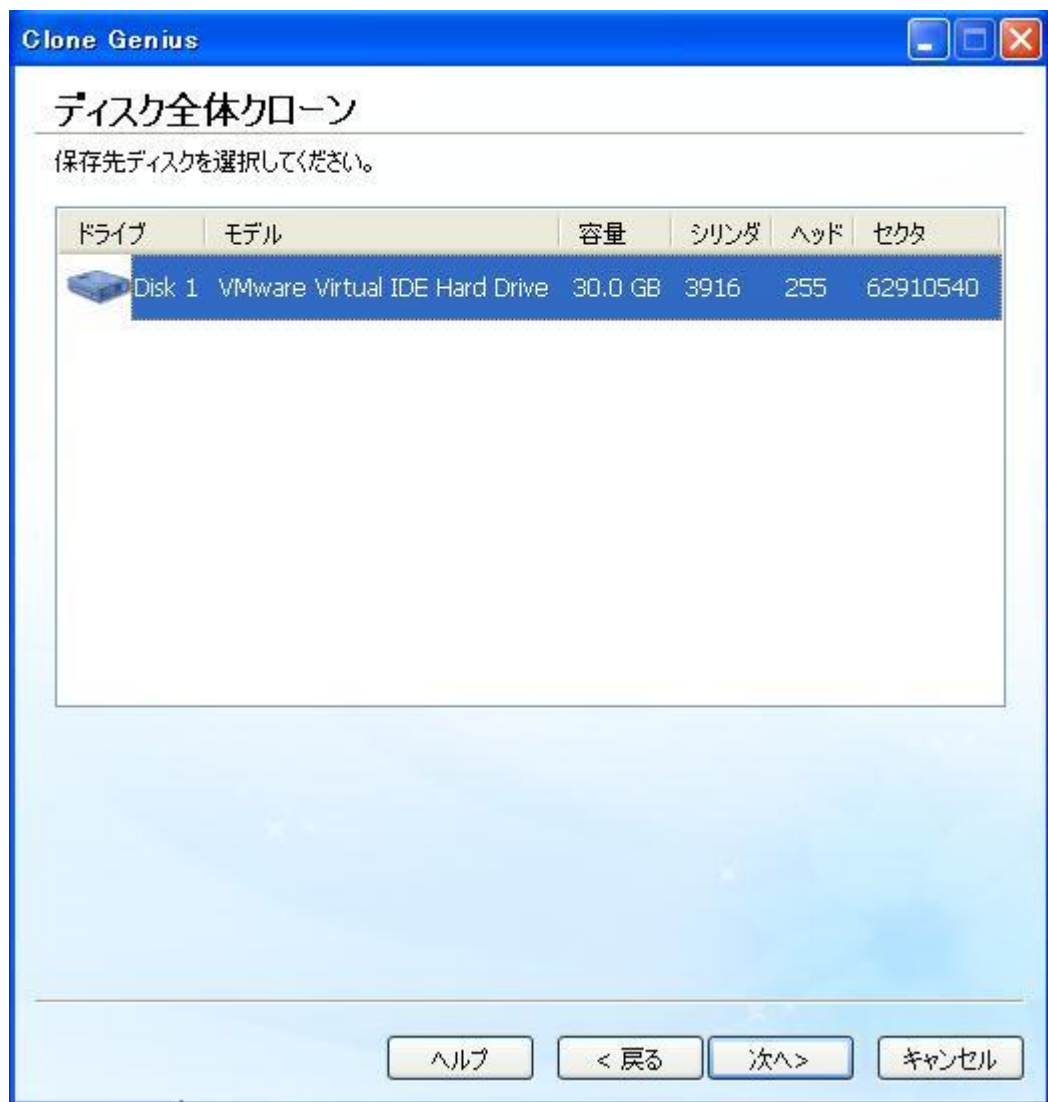
**警告：** このオプションは、保存先ディスクにあるすべてのデータを消去します。初めに、保存先ディスクにある重要なデータを（他に）バックアップしてください。

ディスク全体をクローンするには、次の手順に従ってください：

1. ソースとして、ディスクを選び、次へをクリックしてください。

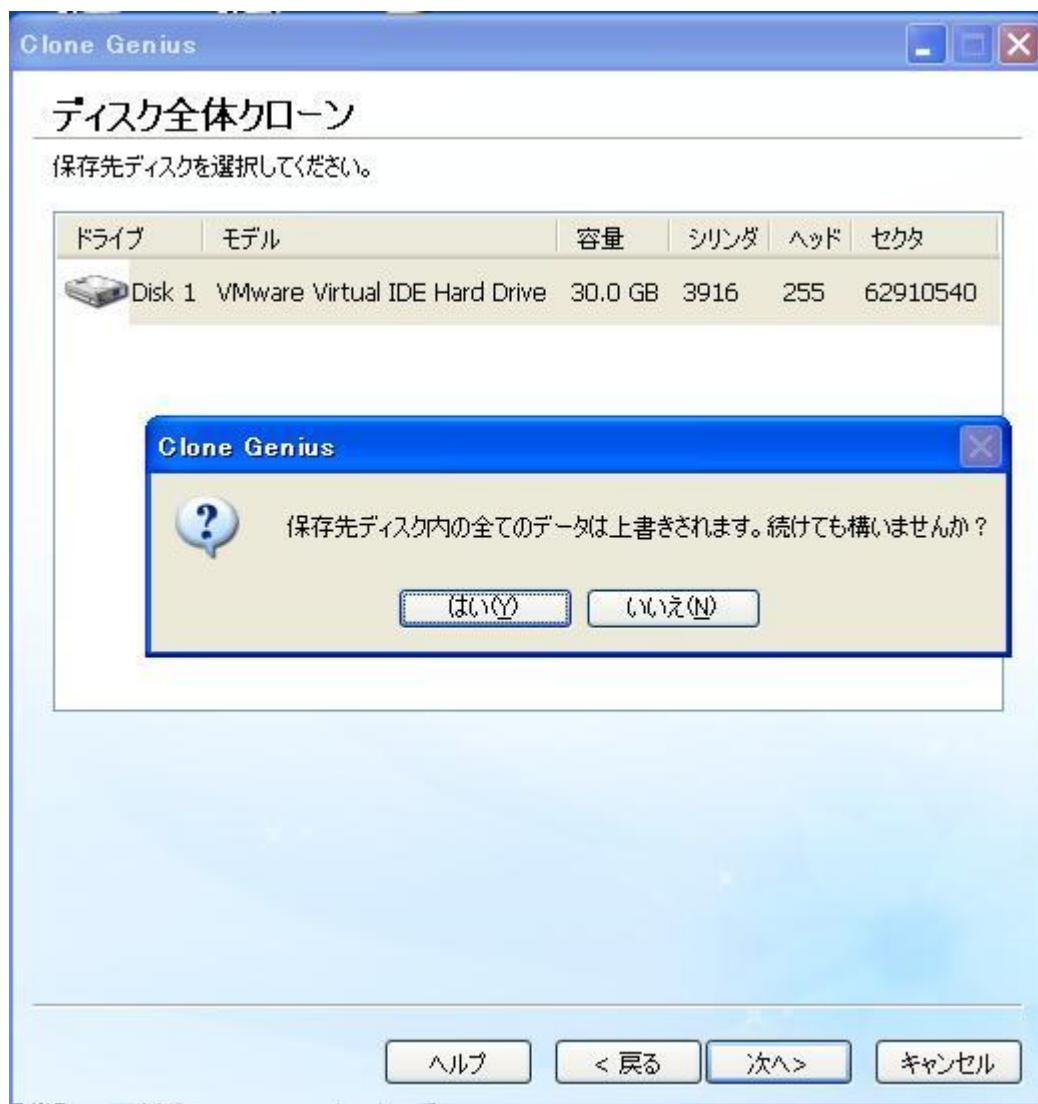


2. 保存先として、ディスク（ターゲットディスク）を選び、次へをクリックしてください。



3. 「はい」をクリックすると、「ディスクからディスクへの」クローンが始まります。

**注意:** 保存先ディスクにあるすべてのデータは上書き(削除)されます。  
バックアップを作成したことを必ずご確認ください。



4. 「OK」をクリックして、「ディスクからディスクへの」クローンを完了させてください。

**注意：** [ディスク全体のクローン] を実行するには、次の 3 つの条件が満たされなければなりません。

- コンピュータに、2 つ以上のディスクが必要です。
- ソースディスクには最低 1 つのパーティションが必要です。
- 保存先ディスクの容量は、ソースディスクの容量と同じか大きくなければなりません。

# データバックアップと復元

## ファイル/フォルダーバックアップ/復元

### ファイル/フォルダーバックアップ

フォルダーバックアップは重要なファイルをバックアップし、データの損失を防いでくれます（増分バックアップが可能）。設定したスケジュールに基づいて、データを自動的に、定期的にバックアップします。バックアップファイルから、1つ、または、それ以上のファイルをリストアすることができます。

ファイルフォルダーバックアップのインターフェース：

#### ファイル/フォルダーバックアップ

バックアップを作成する場合は、まず「新規バックアップファイルの作成」を選び、バックアップしたいファイルを選択してください。次に、バックアップファイルの名前を入力し、保存場所を選択します。次に、自動バックアップの方式を選びます（自動バックアップが必要無ければこのステップは無視してください）。次に、「今すぐバックアップ」ボタンをクリックすると、バックアップを開始します。「今すぐバックアップ」ボタンをクリックすると、バックアップを開始します。

##### ステップ 1: バックアップの種類を選択

☒ 新しくバックアップファイルを作成（すべてのファイルがバックアップされます。）

☐ 増分バックアップ（この手順では前回のバックアップファイルをベースにします。変更または追加されたファイルだけがバックアップされます。）

##### ステップ 2: バックアップファイルを選択

マイコンピュータ

- C:
- E:

追加 >>

<< 削除

選択したファイル/フォルダ:

##### ステップ 3: 保存先

名前:

保存パス:  参照

##### ステップ 4: スケジュール

☐ スケジュールバックアップ 日曜日 3 : 00 有効

☐ 終了時にシャットダウン

詳細設定 今すぐバックアップ キャンセル

1. **バックアップの種類を選択します。**

2 種類のバックアップがあります：

- フルバックアップ：フォルダー内の全フォルダーとファイルをバックアップ
- 増分バックアップ：（バックアップ時間短縮のため、前回のフルバックアップフォルダーを基にして、新規に追加された、あるいは、修正されたファイルのみバックアップ

2. **ターゲットフォルダーを選択します。**

詳細内で、バックアップしたいファイルをクリックします（複数のファイルを選択する場合、CTRL キーを押しながら各ファイルをクリックして下さい。）

3. **名前と保存パス（保存場所）を指定します。**

識別し易いように、リストアポイント毎にコメントを入力しておくことをお勧めします。

4. **バックアップの時間を設定します。**

- 自動：時間で自動的にバックアップを実行するドロップダウンリストからバックアップ時間を設定することができます。
- 自動解除：時間で自動的にバックアップを実行しない

5. **有効をクリックします**

今すぐ実行を選択すると、バックアッププログラムが直ちに始まります。

---

## ファイル/フォルダーバックアップタイプ

### フルバックアップ

フルバックアップは、あらゆる種類のバックアップをするにあたっての出発点で、バックアップする為に選択するファイルやフォルダ内の全データが含まれています。フルバックアップは全ファイルとフォルダを保管しているので、頻繁にフルバックアップを行うと、リストア作業がより早く、簡単になります。他の種類のバックアップを選ぶと、リストア作業に時間がかかるかもしれないということを覚えておいて下さい。

フルバックアップは、包括的で、（あなたの）全データが含まれるバックアップなので、常にフルバックアップを取ることが理想的です。しかし、フルバックアップをするのに要する時間を考えた場合、この種のバックアップは時によって敬遠されることがあります。バックアップメディアが早く、大容量になったことにより、夜通しのフルバックアップも現実的なものとなりましたが、

スケジュールを組んで毎週あるいは毎月フルバックアップを行うというのが一般的です。

実行する時間があるのであれば、フルバックアップはデータを守る最善のソリューションを提供してくれます。事実、1回のバックアップで、全てのバックアップされたファイルを完全にリストアすることができます。

一方で、セキュリティに関する重要な点も知っておく必要があります。各フルバックアップには全データのコピーが含まれます。バックアップメディアが違法にアクセスされたり、盗難された場合、ハッカーや窃盗犯があなたの全データのコピーにアクセスするかもしれません。

優位性：

- 復元が高速です

不利な点：

- バックアップに最も時間がかかります
- (増分バックアップに比べ)大容量の保存領域が必要

増分バックアップは、前回のフルバックアップ以降に変更された全ファイルを保存することができます。増分バックアップの最大の長所は、大容量のデータをバックアップする時に、多くの時間を節約する事ができる点です。バックアップに長時間がかかり、多くの同じファイルを毎回繰り返しバックアップしがちなフルバックアップを絶えず行うの比べ、増分バックアップはデータのバックアップが非常に早く済みます。

---

## ファイル/フォルダー復元

ファイルフォルダー復元は（フォルダーバックアップを使って作成した）バックアップファイルからフォルダーを自動的にリストアします。

使い方

1. 復元したいリストアポイントを選択します。
2. バックアップの状況によって、リストアポイントの書類の状況やカタログ構造は異なります。フォルダー復元は各リストアポイントの状況に正確に戻します。
3. 復元するファイル/フォルダーを選択します。
4. 復元したい場所を選択します。
  - 元の場所：元のパスにファイルやカタログ構造が完全に上書きされます。
  - 別の場所：他の場所に置きます。
5. OK をクリックします。



---

## パーティションバックアップと復元

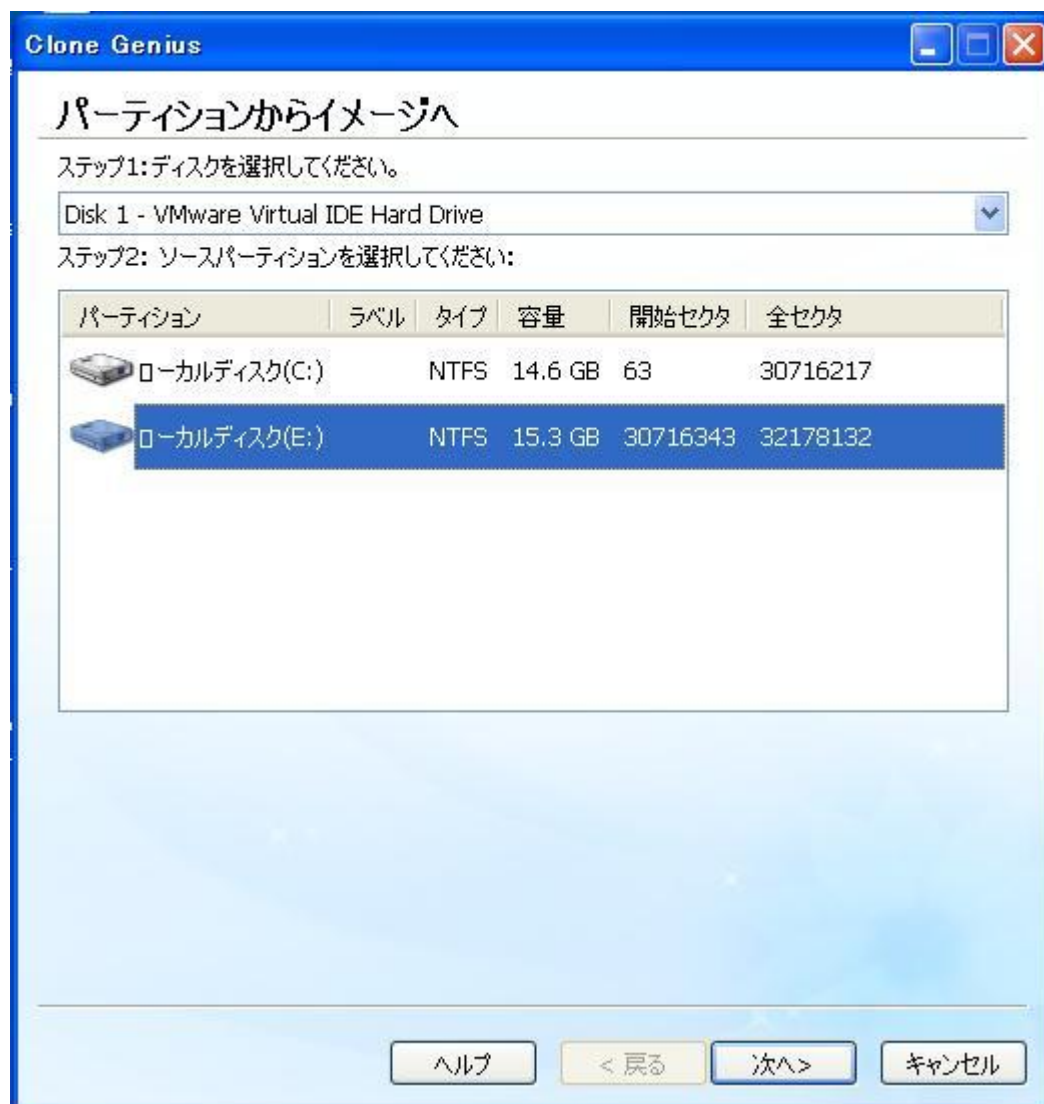
---

### パーティションバックアップ：

定期的なメンテナンスのために、パーティションをバックアップすることが出来ます。パーティションをイメージファイルに保存します。イメージファイルは、同じディスクの他のパーティションや、他の外付けハードディスクに保存できます。本プログラムは、ストレージ容量を節約するために、イメージファイルを圧縮できます。適正な圧縮率は、処理時間とストレージ容量のバランスで決めてください。

**ソース（バックアップ元）パーティションからすべてのデータを、イメージファイル（\*.PCH、あるいは、 \*.PCH と \*.PCS)にバックアップします。**

1. ドロップダウンリストから、ソースパーティションのあるディスクを選んでください。
2. その中から1つのパーティションをソースとして選び、**次へ**をクリックしてください。

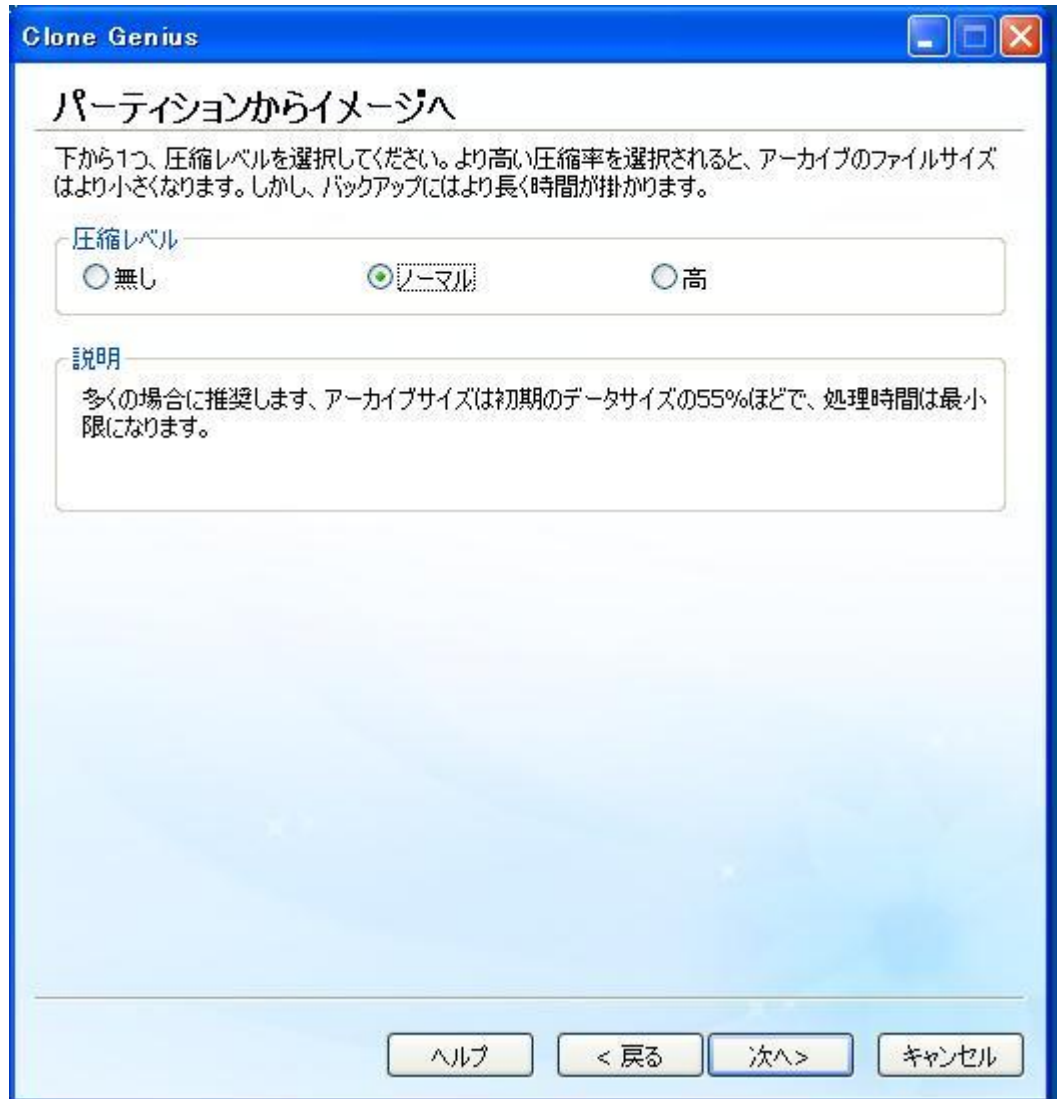


3. **参照**をクリックして、保存先フォルダを指定するか、保存した設定のファイル名を入力して、**保存**をクリックしてください。  
一般的なユーザは、イメージファイルを保存する先には（64MB 以上の）十分な空きのあるパーティションを選ぶよう、強くお勧めします。

4. 次へをクリックします。



5. 圧縮レベルを選んでください。



**無し：** イメージファイルはもっとも大きな容量になります。ストレージ容量に問題が無ければ、このオプションを選ぶことができます。バックアップの速度は、最も速くなります。

**ノーマル：** このオプションは、リカバリポイントの約 40%の平均データ圧縮率の低圧縮を使います。この設定がデフォルトです。

**高圧縮：** イメージファイルは、最小限の容量しか使いません。このオプションは、リカバリポイントの約 50%の平均データ圧縮率の高圧縮を使います。この設定は、通常、最も処理速度が遅くなります。CPU の使用は、ノーマルよりも高負荷になります。同時に稼働しているコンピュータの他のプロセスも同様に遅くなります。

6. 次へをクリックします。
7. 「OK」をクリックすると、クローンが完了します。

**注意：**

- ディスクには、2 つ以上のパーティションが必要です。
- 一般的なユーザは、イメージファイルを保存する先には（64MB 以上の）十分な空きのあるパーティションを選ぶよう、強くお勧めします。バックアップ中に、イメージファイルを保存する十分な容量が無くなってしまった場合、ファイルブラウザが自動的にポップアップして、別のパーティションに、拡張子 PCS (PCS ファイル) で次のイメージファイルを作成して保存するようにします。このプログラムは、自動的に推奨のパーティションとファイル名を表示します。このステップは、バックアップが完了するまで、同様に繰り返されます。この場合、複数の PCS ファイルを作成する必要があるかもしれません。それらの PCS ファイルの作成順序を覚えて、リストアする際には、同じ順序で行ってください。このため、PCS ファイルには、PCS001, PCS002, PCS003... のように連番を付けることをお勧めします。
- 単独のイメージファイル (PCH または PCS) の最大サイズは、2G です。イメージファイルが 2G を越えると、拡張子 PCE (PCE ファイル) の拡張ファイルが自動的に作成されます。この場合、バックアップが完了した際に、イメージファイルと拡張ファイルを別のディレクトリに離さないでください。もし、PCH ファイルや PCS ファイルを移動する場合には、必ず、その PCE ファイルも一緒に移動してください。ただし、イメージファイルを移動しないように、強く、お勧めします。

---

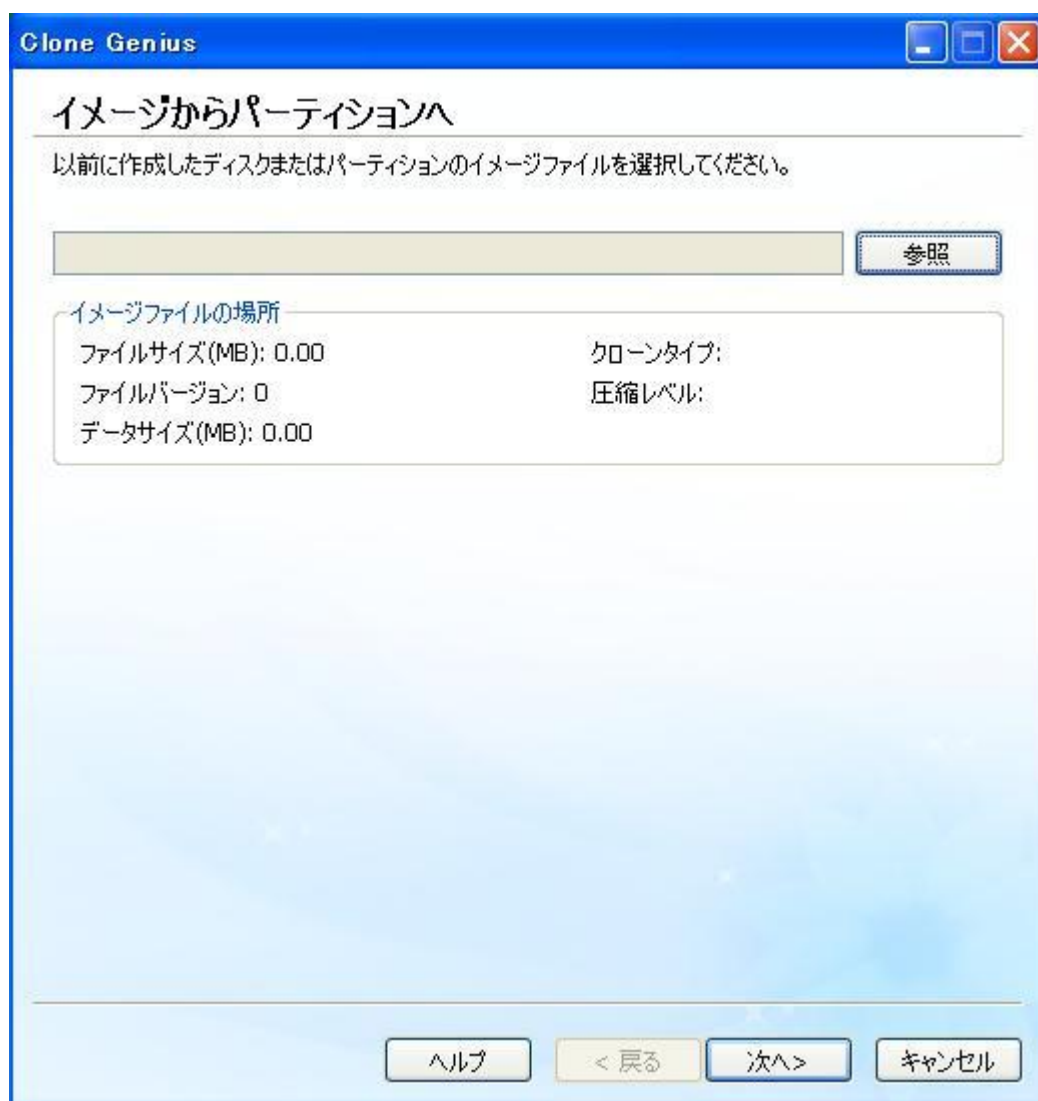
## パーティションの復元：

パーティション全体を以前の状態に復元する。同じディスクの他のパーティションや、他の外付けハードディスクにあるイメージファイルから復元できます。本プログラムは、圧縮されたイメージファイルから自動的に展開します。ディスクを復元する際に、バックアップファイルを選択する必要があるかもしれません。

**バックアップしたイメージファイルからパーティションへの復元。**

**警告：** このオプションは、保存先（リストア先）のディスク上のすべてのデータを消去します。初めに、重要なデータはバックアップしてください。

1. **参照** をクリックして、前もってバックアップしてある適切なパーティションに、リストアするためのイメージファイルを選び、**次へ** をクリックします。

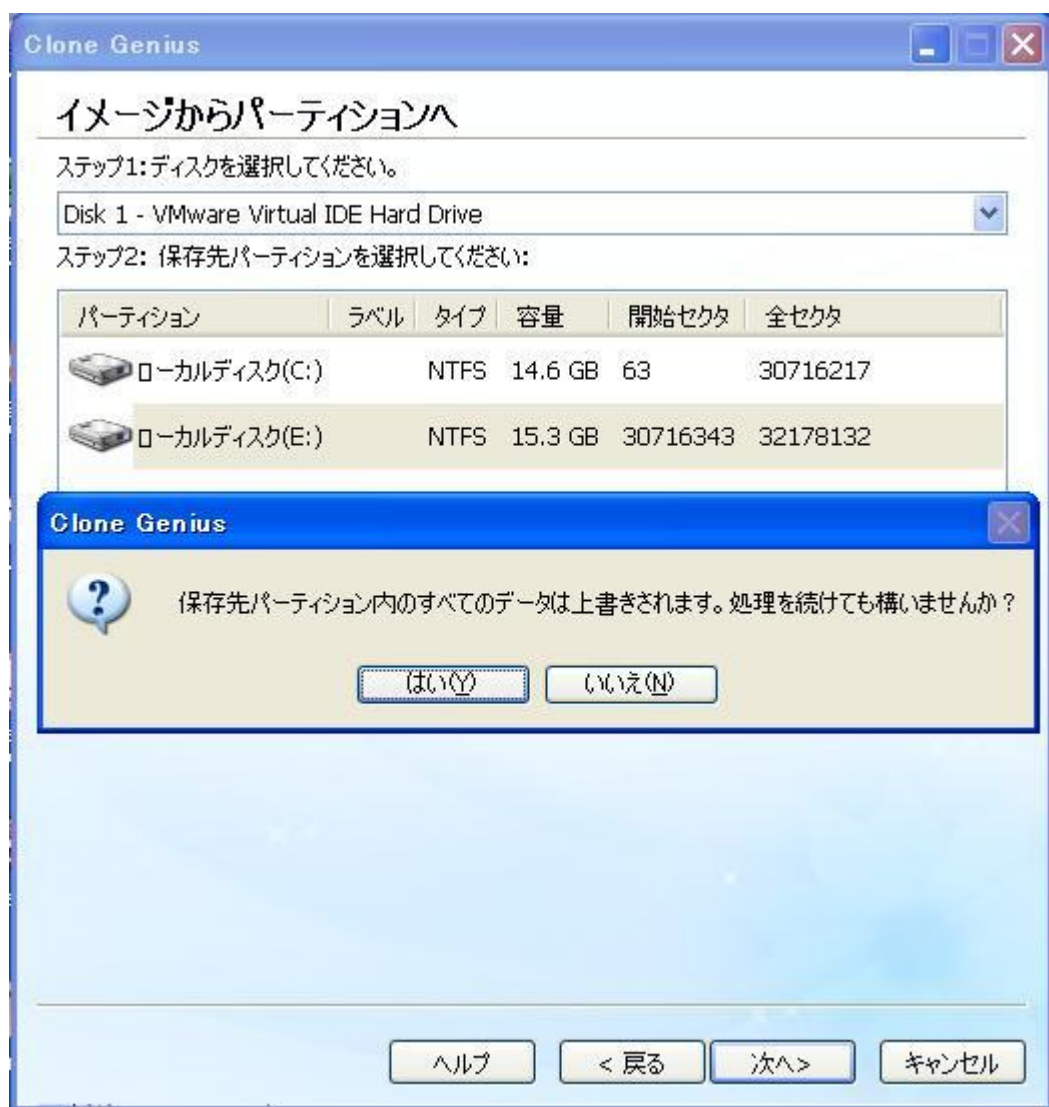


2. ドロップダウンリストから、リストア先にするパーティションのあるディスクを選んでください。

3. イメージファイルをリストアするパーティションを選び、**次へ**をクリックします。



4. **はい**をクリックして進みます。注意：復元先のディスクにあるデータはすべて上書きされます、必要なデータはバックアップしてください。



5. 「OK」をクリックして、クローンを完了させてください。

**注意：**

1. 保存（リストア）先パーティションは、イメージファイルに保存されているデータすべてを保持するのに十分な大きさの容量が必要です。
2. リストアするイメージファイルに、PCH ファイルと PCS ファイルが含まれている場合には、初めに、PCH ファイルを選んでください。リストア処理中、ファイルブラウザが自動的に開いたら、次の PCS ファイルを選択してください。複数の PCS ファイルがある場合、必ず、順番に指定してください、PCS ファイルの順番は作成時に決定されているためです。



## ディスクバックアップ/復元

---

### ディスクバックアップ：

ハードディスクの故障の恐れに備えてハードディスク全体をバックアップできます、ディスク内容はイメージファイルに保存されます。イメージファイルは、別の外付けディスクに保存する必要があります。本プログラムは、ストレージ容量を節約するために、イメージファイルを圧縮できます。適正な圧縮率は、処理時間とストレージ容量のバランスで決めてください。

ソース（バックアップ元）ディスクからすべてのデータを、イメージファイル（\*.PCH、あるいは、 \*.PCH と \*.PCS)にバックアップする。

ディスク全体をイメージバックアップするには、次の手順に従ってください：

1. ソースディスクを選び、 **次へ**をクリックしてください。

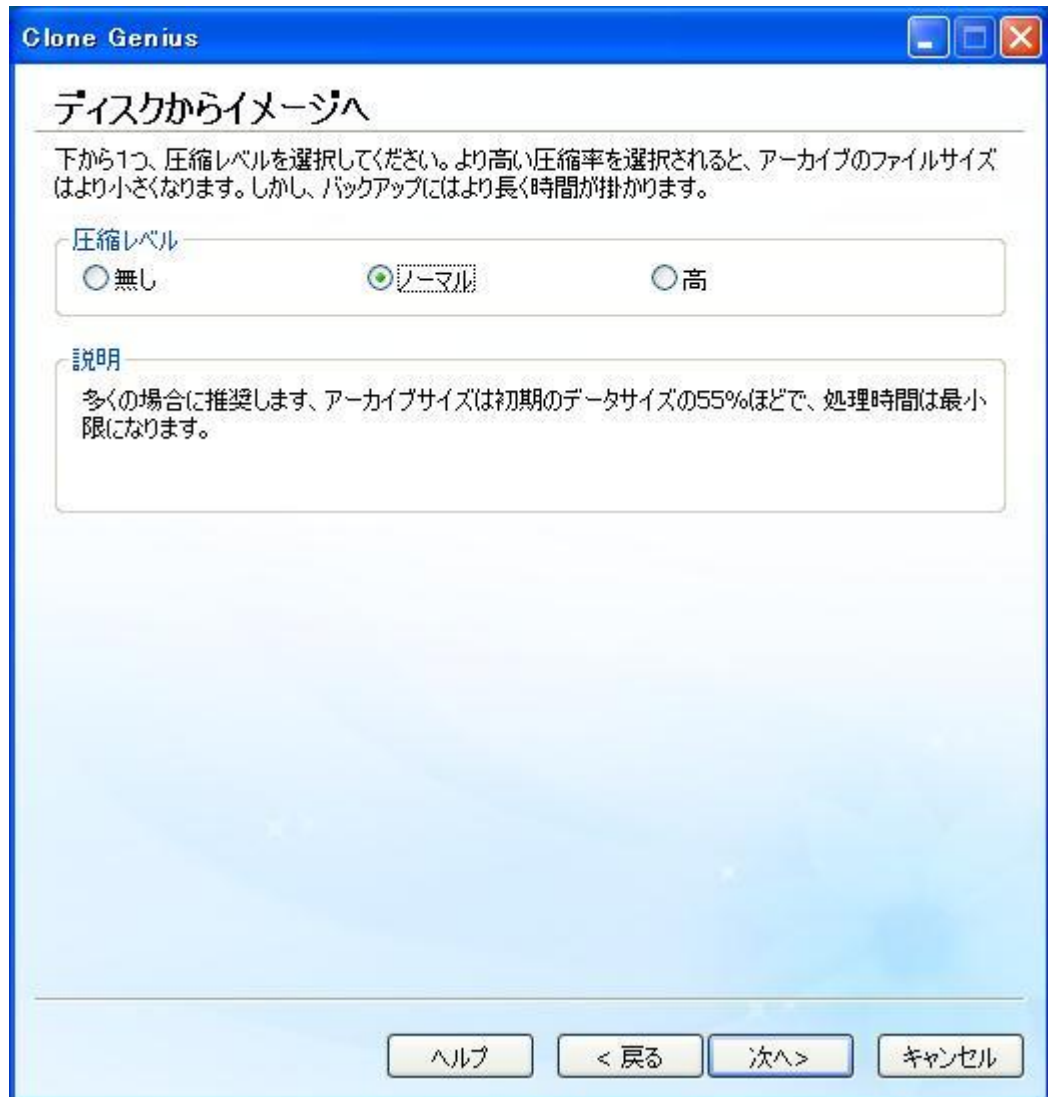


2. **参照**をクリックして、保存先フォルダを指定するか、保存した設定のファイル名を入力して、 **保存**をクリックしてください。



**注意：** 一般的なユーザは、イメージファイルを保存する先には（64MB 以上の）十分な空きのあるパーティションを選ぶよう、強くお勧めします。

3. **次へ**をクリックします。
4. **圧縮レベル**を選んでください。



**注意：** 高速なバックアップにはより多くのディスク容量が必要です。ディスク容量が十分なら、このバックアップオプションを選択してください。

**ノーマル：** このオプションは、リカバリポイントの約 40%の平均データ圧縮率の低圧縮を使います。この設定がデフォルトです。

**高圧縮：** イメージファイルは、最小限の容量しか使いません。このオプションは、リカバリポイントの約 50%の平均データ圧縮率の高圧縮を使います。この設定は、通常、最も処理速度が遅くなります。CPU の使用は、ノーマルよりも高負荷になります。同時に稼働しているコンピュータの他のプロセスも同様に遅くなります。

5. **次へ** をクリックすると、ディスクイメージへのクローンが始まります。
6. 「OK」をクリックして、クローンを完了させてください。

**注意：**

1. **ディスクからイメージへ**を実行するには、次の 3 つの要件が満たされなければなりません：

コンピュータに、2 つ以上のディスクが必要です。

ソースディスクには最低 1 つのパーティションが必要です。

2. 一般的なユーザは、イメージファイルを保存する先には（64MB 以上の）十分な空きのあるパーティションを選ぶよう、強くお勧めします。バックアップ中に、イメージファイルを保存する十分な容量が無くなってしまった場合、ファイルブラウザが自動的にポップアップして、別のパーティションに、拡張子 PCS (PCS ファイル) で次のイメージファイルを作成して保存するようにします。このプログラムは、自動的に推奨のパーティションとファイル名を表示します。このステップは、バックアップが完了するまで、同様に繰り返されます。この場合、複数の PCS ファイルを作成する必要があるかもしれません。それらの PCS ファイルの作成順序を覚えて、リストアする際には、同じ順序で行ってください。このため、PCS ファイルには、PCS001, PCS002, PCS003... のように連番を付けることをお勧めします。
3. 単独のイメージファイル (PCH または PCS) の最大サイズは、2G です。イメージファイルが 2G を越えると、拡張子 PCE (PCE ファイル) の拡張ファイルが自動的に作成されます。この場合、バックアップが完了した際に、イメージファイルと拡張ファイルを別のディレクトリに離さないでください。もし、PCH ファイルや PCS ファイルを移動する場合には、必ず、その PCE ファイルも一緒に移動してください。ただし、イメージファイルを移動しないように、強く、お勧めします。

---

## ディスクの復元：

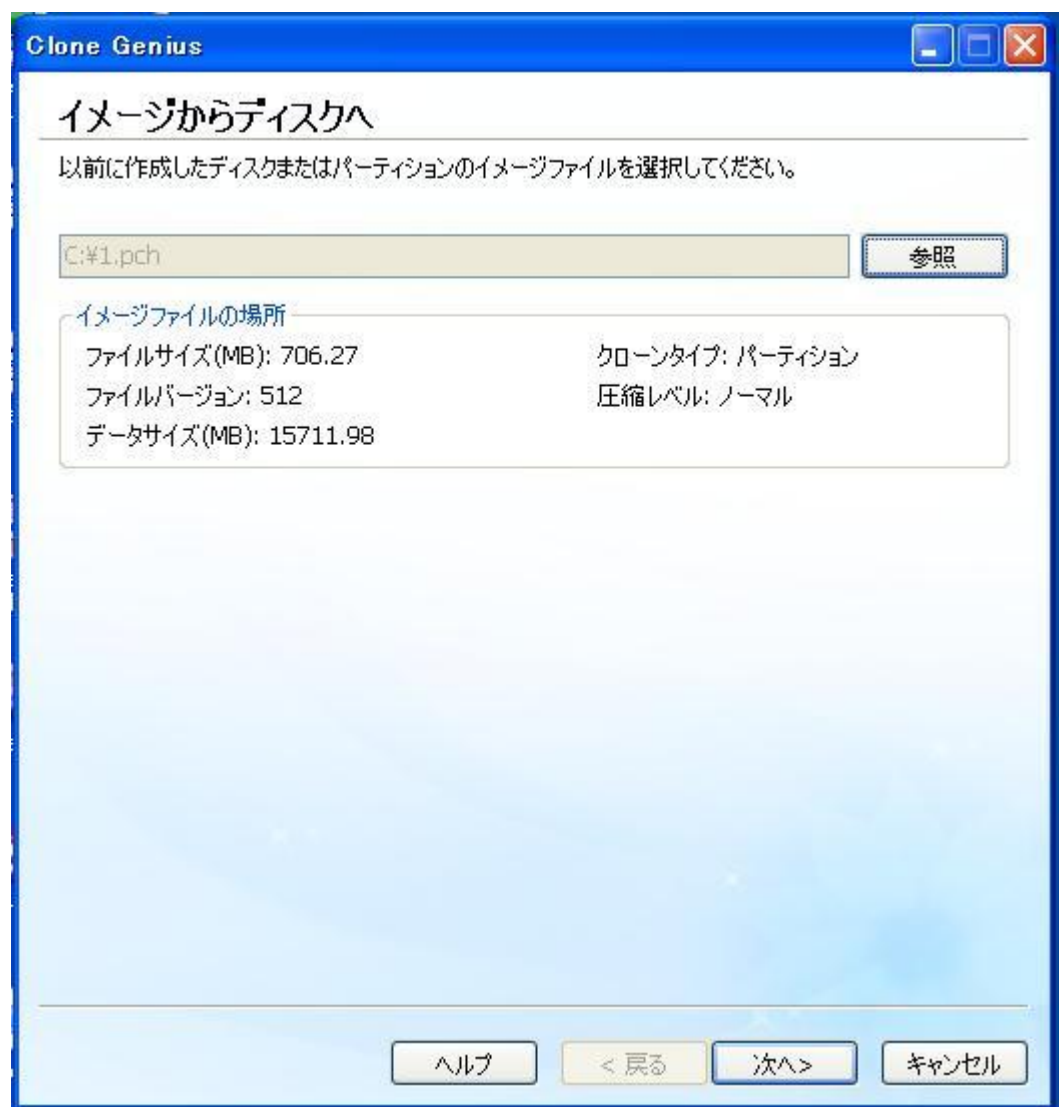
破損したハードディスクをバックアップファイルで以前の状態に復元する。本プログラムは、他のディスクの圧縮イメージファイルから、自動的に復元します。ディスクを復元する際に、バックアップファイルを選択する必要があるかもしれません。

**バックアップしたイメージファイルからディスクへの復元。**

**警告：** このオプションは、保存先（リストア先）のディスク上のすべてのデータを消去します。初めに、重要なデータはバックアップしてください。

ディスクイメージを復元するには、次の手順に従ってください：

1. **参照**をクリックして、以前バックアップしたディスクの（適切な）イメージファイルを選び、**次へ**をクリックします。



2. イメージファイルを復元するディスクを選び、**次へ**をクリックします。
3. Click 「はい」をクリックすると、「イメージからディスクへの」復元が始まります。**注意**：復元先のディスクにあるデータはすべて上書きされます、必要なデータはバックアップしてください。



4. 「OK」をクリックして、クローンを完了させてください。

**注意：**

1. イメージからディスクへを実行するには、次の要件が満たされなければなりません：
  - コンピュータに、2 つ以上のディスクが必要です。
  - 復元先ディスクは、イメージファイルに保存されているデータすべてを保持するのに十分な大きさの容量が必要です。
2. リストアするイメージファイルに、PCH ファイルと PCS ファイルが含まれている場合には、初めに、PCH ファイルを選んでください。

3. リストア処理中、ファイルブラウザが自動的に開いたら、次の PCS ファイルを選択してください。  
複数の PCS ファイルがある場合、必ず、順番に指定してください、PCS ファイルの順番は作成時に決定されているためです。

---

## パスワード&キー検索

### パスワード検索

---

パスワード検索は、効果的で強力な復元ツールです。ほとんどのパスワードは、長さに関係なく、簡単に、復元できます。

以下のパスワード検索の簡単な機能のリストです。

1. MSN 7.0/7.5/8.0/8.5、Outlook 2003/2007/2010、ACCESS 2003/2007/2010、Internet Explorer のオートコンプリション、Google Talk、Yahoo Messenger 7.5 またはそれ以上のバージョン、Windows 自動ログオンとダイヤルアップその他のパスワードの復元に対応しています。
2. ユーザーフレンドリーなインターフェース。
3. ほとんどのパスワードは、簡単に復元できます。

製品名	サポート対象
パスワード検索	MSN、Outlook、ACCESS、Internet Explorer のオートコンプリション、Google Talk、Yahoo Messenger、Windows 自動ログオンとダイヤルアップその他のパスワードの復元に対応しています。

インスタントパスワード検索は、パスワードの可能性のあるものをシステムでチェックして、すぐに、パスワードを表示します。

Windows システムの稼働中、多くの重要なデータがシステム領域に音も無く見えないまま、個人の、またプライベートな、そしておそらくは、秘密の情報も、保管されます。インスタントパスワード検索は、現在のシステムからそのデータを読み出して、ユーザー名・パスワードとして抽出します。

このツールを使えば、ワンクリックで、Windows のシステムに隠されたパスワードを見つけることが出来ます。パスワードには、MSN Hotmail のパスワード、Yahoo のパスワード、Outlook のパスワード、IE のオートコンプリートパスワード、Web サイトのログインパスワード、ダイヤルアップのパスワード等



が含まれます。インスタントパスワード検索は、幾つかの、「ありえるユーザー名とパスワード」を探し出します。

---

## パスワードをどうやって探すか

MSN、Outlook、Access、Google Talk、Windows 自動ログオン、IE オートコンプリーション、ダイヤルアップ

1. 検索したいパスワードのタイプを選択します。
2. 次へをクリックします。

### Access ファイルのパスワード

1. Access パスワードを選び、次へをクリックします。
2. 参照をクリックして、パスワードを検索したい Access ファイルを指定します。
3. 開くをクリックします。

### Yahoo パスワード

簡単な3ステップで、目的のコンピュータに保存したパスワードを転送できます。

1. 元のコンピュータでこのプログラムを実行し、パスワードデータの抽出をクリックし、パスワードのデータを抽出します。抽出された情報は、指定されたファイルに保存されます。
  2. 目的のコンピュータに、そのファイルをコピーします。
  3. 実行中の場合は Yahoo Messenger を終了します。このプログラムを実行し、パスワードデータの復元をクリックし、パスワードのデータを復元します。
- 

## Windows キー検索

---

Windows は様々な理由で起動に失敗します。Windows の再インストールは、Windows 上の多くの問題を効果的に解決する、奥の手です。Windows の再インストールの際には、Windows のプロダクトキーを入力する必要があります。弊社のプログラムは、Windows の再インストールに備えて、MS の Windows のプロダクト ID とプロダクトキーを探し出すことが出来ます。本プログラムは、ハ

ードディスクにインストールされているすべての Windows を探し出します。見つかった製品名、プロダクト ID、プロダクトキーを次の表にリストアップします。注意：任意の 2 つの列の境界線にマウスを移動し、左ボタンを押してマウスを左方向または右方向にドラッグすることで、どの列の幅でも調整することができます。

Windows キー検索の画面です：



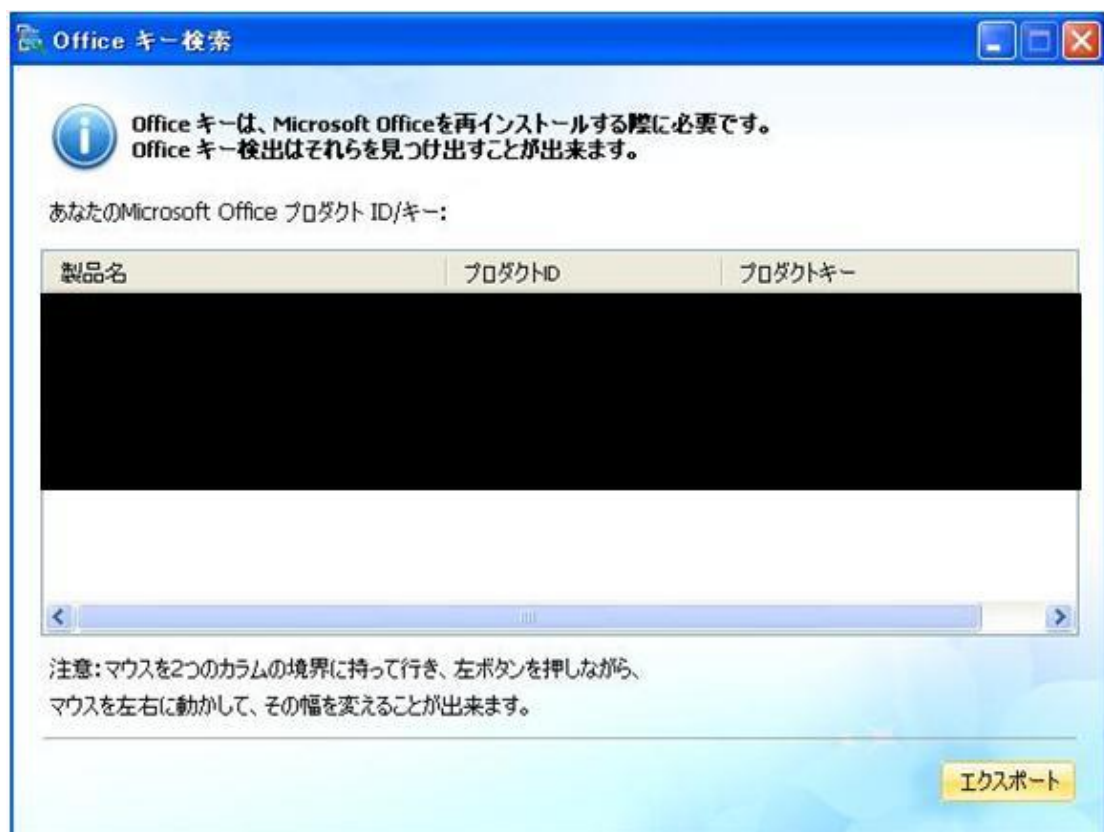
- **製品名**： コンピュータにインストールされているバージョンを表示します。
- **プロダクト ID**： コンピュータの製造メーカーについての情報、製品固有の情報、製品の登録状況、製品の認証情報等、その他を見つけるための有用な番号。
- **プロダクトキー** ソフトウェアの違法コピーを防ぐための、ソフトウェア固有の英数字の組合せ。これらの識別番号無しでは、ユーザは、コンピュータにソフトウェアをインストールすることは出来ません。

## Office キー検索

Office キーは、Microsoft Office の再インストールに必要です。Office キーの書かれた紙を無くした場合、レジストリから探し出すのは、可能ですが、非常に困難です。幸いなことに、Office キー検索で、簡単に見つけ出すことができます。本プログラムは、ハードディスクにインストールされているすべての Office を探し出して、見つかった製品名、プロダクト ID、プロダクトキーを表にリストアップします。本製品は、Office 97、Office 2000、Office XP、Office 2003、Office 2007、Office 2010 を含む、すべての Microsoft Office に対応しています。

**注意：** 任意の 2 つの列の境界線にマウスを移動し、左ボタンを押してマウスを左方向または右方向にドラッグすることで、どの列の幅でも調整することができます。

Office キー検索の画面です：



- **製品名：** コンピュータにインストールされているバージョンを表示します。

- **プロダクト ID** : コンピュータの製造メーカーについての情報、製品固有の情報、製品の登録状況、製品の認証情報等、その他を見つけるための有用な番号。
- **プロダクトキー** ソフトウェアの違法コピーを防ぐための、ソフトウェア固有の英数字の組合せ。これらの識別番号無しでは、ユーザは、コンピュータにソフトウェアをインストールすることは出来ません。

---

## LiveBoot ウィザード

- 一 [LiveBoot™ ウィザードの概要](#)
- 二 [作成した CD からブートさせる方法](#)
- 三 [USB ドライブからブートさせる方法](#)

### 一 LiveBoot ウィザードの概要

Wondershare™ LiveBoot™ ウィザードです。このウィザードは、ブータブル（起動可能な LiveBoot CD または USB ドライブの作成方法をご案内します。コンピュータがクラッシュしていても異常動作していても、bootable CD または USB ドライブからコンピュータを起動することが出来ます。Wondershare™ LiveBoot™ は、オールインワンの起動ディスクで、コンピュータの緊急修理とメンテナンスに必要な 40 を超えるツールが含まれています。

### 二 作成した CD からブートさせる方法

---

Wondershare™ LiveBoot™ CD は、ブータブル(起動可能)CD です。コンピュータがクラッシュしていても異常動作していても、この緊急起動用の CD からコンピュータを起動することが出来ます。



---

## コンピュータが、LiveBoot™ CD から起動しないときは、どうすれば良いでしょうか？

LiveBoot™ CD が正しく作成されていて、なおかつ、起動しなかった場合、CD/DVD-ROM を起動デバイスとしての順位を 1 番にする必要があります。

**注意：** Boot Menu Key（通常は、F2 や F12）を押して、起動デバイスの選択が出来るので、BIOS の起動順序の変更までする必要は余りありません。

---

### CD から起動させるための BIOS の設定のステップバイステップの手順：

**ステップ 1：** BIOS (設定) セットアップを呼び出すには、コンピュータを再起動して、スクリーンが表示されると同時に、キーボードから BIOS 固有のキーを押す必要があります。異なるコンピュータ製造メーカーは、それぞれ異なるキーを使っています。以下は、よく使われている BIOS キー（の例）です。

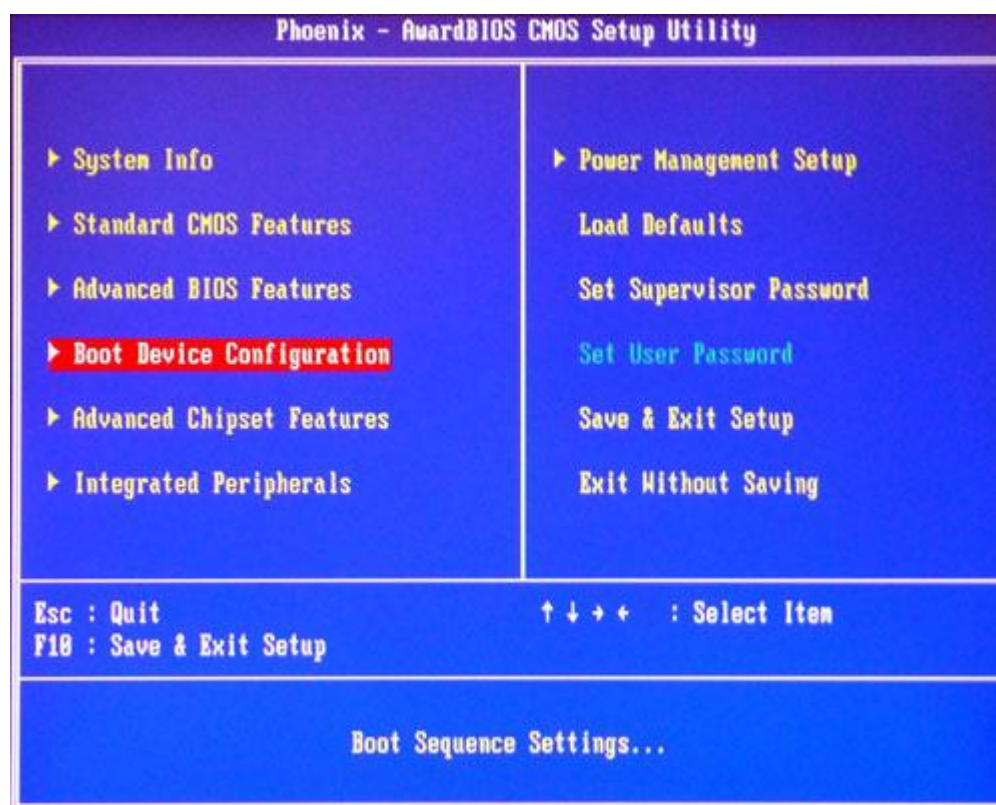
- 削除
  - F2
  - F12
- 

スクリーン右上部か、下部で、BIOS の設定キーを確認できます。多くのシステムでは、システムセットアップに入るには、どのキーを押せば良いか、メッセージを表示します。以下は、Phoenix-Award BIOS を使っているシステムでの画面のサンプルです。ディスプレイ上部のメッセージに注意してください。このメッセージが表示された時に、F2 キーを押すと、システムセットアップ (System Setup Utility) に入ることができます。



ステップ2: boot device configuration menuに入ります。システムセットアップ (System Setup Utility) に入ると、boot device configuration メインメニューが表示されます。以下は、Phoenix-Award BIOS のメインメニュー画面です。お客様のシステムでは、全く同じではないかもしれませんが、基本的な概念はすべてのシステムセットアップユーティリティで同じになっています。このシステムセットアップユーティリティでは、boot device configuration menuがあります。お客様の場合には違うカテゴリーのこともあります。お客様のシステムセットアップ (System Setup Utility) に「Advanced BIOS Features」カテゴリーが無ければ、起動デバイスの順序の設定が見つかるまで、他のカテゴリーを探してください。





ステップ3： 以下は、「boot device configuration」カテゴリの画面です。画面からお分りのように、1番目の起動デバイスは、CDドライブに設定されています。システムの1番目の起動デバイスが他のデバイス（例えば、ハードディスク等）に設定されている場合は、それを、CDドライブに変更してください。上の画面では、設定を変更する基本的な操作手順（英文）を見る事も出来ます。CDドライブを1番目の起動デバイスに設定したら、その設定を保存して、システムセットアップユーティリティ（System Setup Utility）を終える必要があります。そのためには、ESCを打って、メインメニューに戻ってから、もう一度、ESCを打って、“Save and Exit”を選びます。



注意：市場には文字通り、数百種類のシステムセットアップユーティリティがあり、ここでは、その1つの例を示しましたが、そのすべてで、基本的な操作や概念は同じです。お手元のシステムセットアップが同じように見えない場合、起動デバイスの順序を変える方法を探してください。

### 三 USB ドライブからブートさせる方法

コンピュータがクラッシュしていても異常動作していても、この緊急起動用のUSB ドライブからコンピュータを起動することが出来ます。LiveBoot™ USB ドライブをコンピュータに挿入してから、コンピュータを再起動してください。そうすれば、自動的に起動するはずです。



## コンピュータが、LiveBoot™ USB ドライブから起動しないときは、どうすれば良いでしょうか？

コンピュータが LiveBoot™ USB ドライブから起動しない場合、2 つの理由が考えられます：

- コンピュータの BIOS が、USB からの起動できるように設定されていない。正しく設定するには、下記に従ってください。
- または、コンピュータのマザーボードが USB からの起動に対応していない。代わりに、LiveBoot CD を作成してください。

**注意：** Boot Menu Key（通常は、F2 や F12）を押して、起動デバイスの選択が出来るので、BIOS の起動順序の変更までする必要は余りありません。

---

### USB ドライブから起動させるための BIOS の設定のステップバイステップの手順：

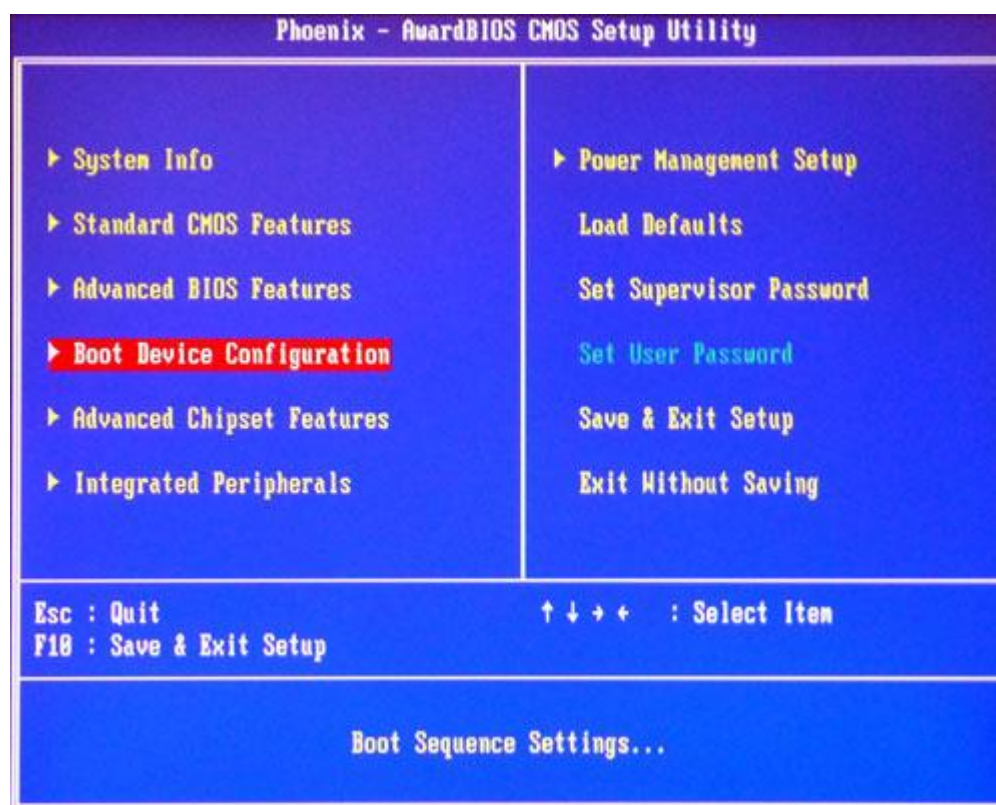
ステップ 1：BIOS (設定) セットアップを呼び出すには、コンピュータを再起動して、スクリーンが表示されると同時に、キーボードから BIOS 固有のキーを押す必要があります。異なるコンピュータ製造メーカーは、それぞれ異なるキーを使っています。以下は、よく使われている BIOS キー（の例）です。

- 削除
  - F2
  - F12
- 

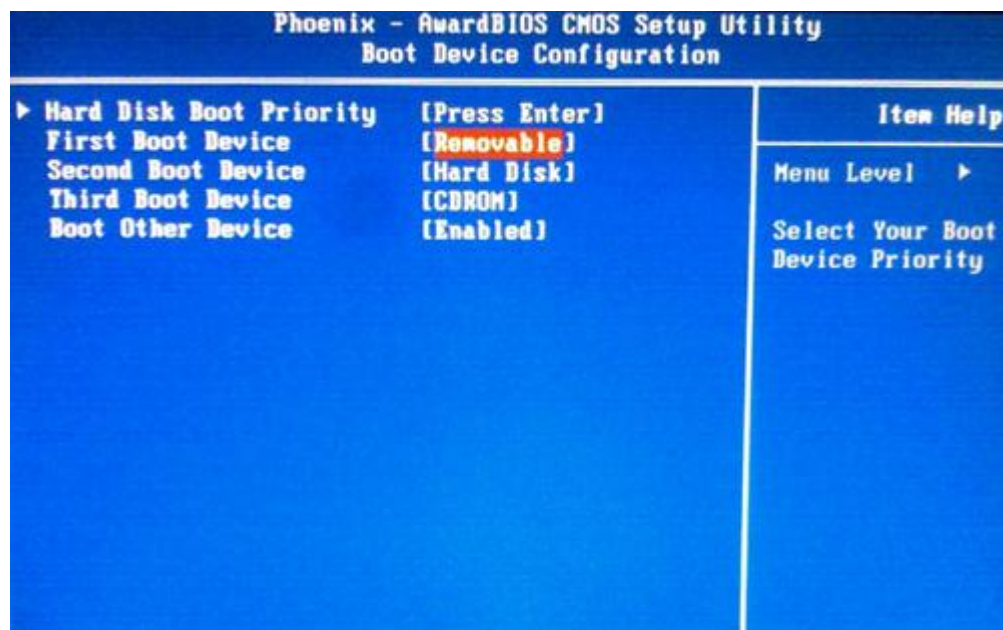
スクリーン右上部か、下部で、BIOS の設定キーを確認できます。多くのシステムでは、システムセットアップに入るには、どのキーを押せば良いか、メッセージを表示します。以下は、Phoenix-Award BIOS を使っているシステムでの画面のサンプルです。**ディスプレイ上部のメッセージに注意してください。**このメッセージが表示された時に、F2 キーを押すと、システムセットアップ (System Setup Utility) に入ることができます。



ステップ2: boot device configuration menuに入ります。システムセットアップ (System Setup Utility) に入ると、boot device configuration メインメニューが表示されます。以下は、Phoenix-Award BIOS のメインメニュー画面です。お客様のシステムでは、全く同じではないかもしれませんが、基本的な概念はすべてのシステムセットアップユーティリティで同じになっています。このシステムセットアップユーティリティでは、boot device configuration menuがあります。お客様の場合には違うカテゴリーのこともあります。お客様のシステムセットアップ (System Setup Utility) に Advanced BIOS Features カテゴリーが無ければ、起動デバイスの順序の設定が見つかるまで、他のカテゴリーを探してください。



ステップ3： 以下は、「boot device configuration」 カテゴリーの画面です。画面からお分りのように、1 番目の起動デバイスは、USB ドライブに設定されています。システムの1 番目の起動デバイスが他のデバイス（例えば、ハードディスク等）に設定されている場合は、それを、USB ドライブに変更してください。上の画面では、設定を変更する基本的な操作手順（英文）を見る事も出来ます。USB ドライブを1 番目の起動デバイスに設定したら、その設定を保存して、システムセッアップユーティリティ (System Setup Utility) を終える必要があります。そのためには、ESC を打って、メインメニューに戻ってから、もう一度、ESC を打って、“Save and Exit”を選びます。



(注意：もし、コンピュータの機種が USB ドライブからの起動に対応していなければ、スクリーンで、USB のオプションが表示されることはありません)

---

注意：市場には文字通り、数百種類のシステムセットアップユーティリティ (System Setup Utility) があり、ここでは、その 1 つの例を示しました。しかし、そのすべてで、基本的な操作や概念は同じです。お手元のシステムセットアップ (System Setup Utility) が同じように見えない場合、起動デバイスの順序を変える方法を探してください。

ヘルプ作成：2012 年 7 月

©株式会社ワンダーシェアーソフトウェア